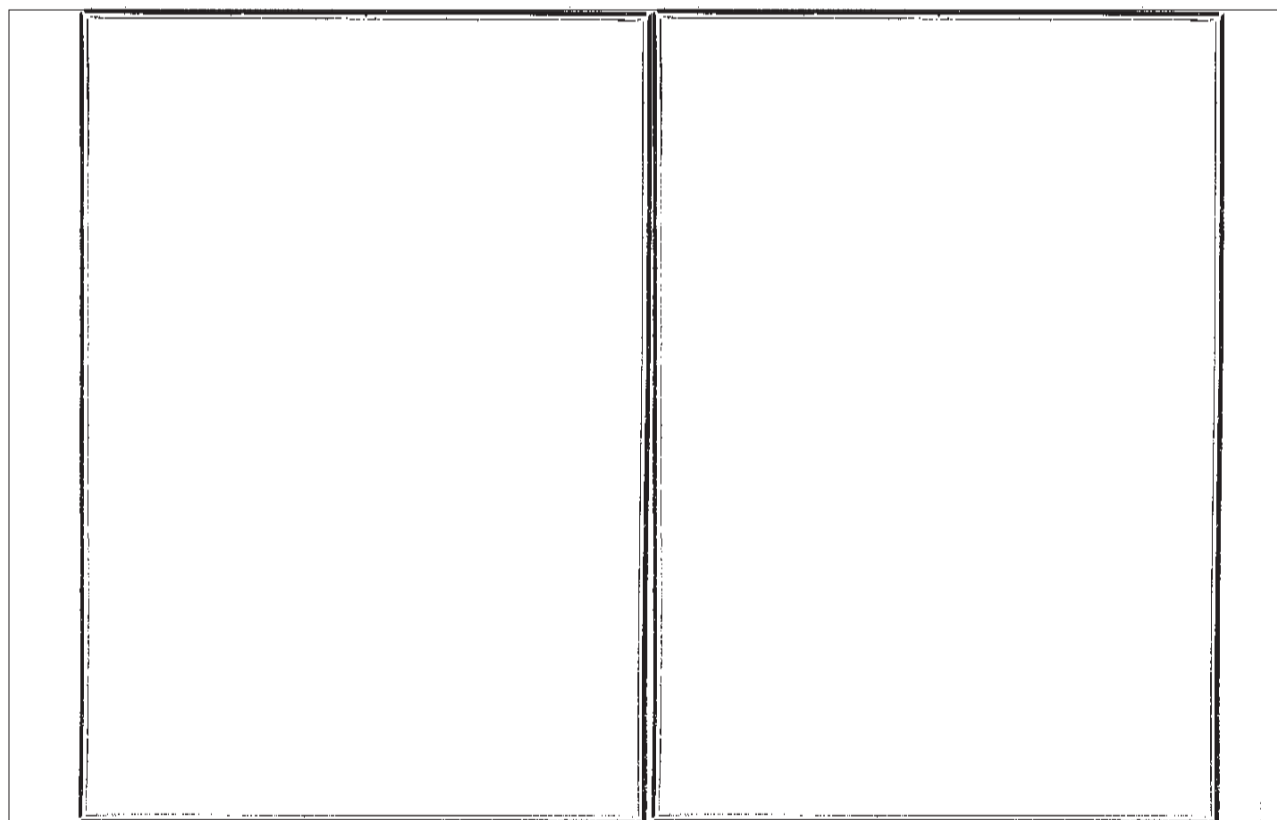
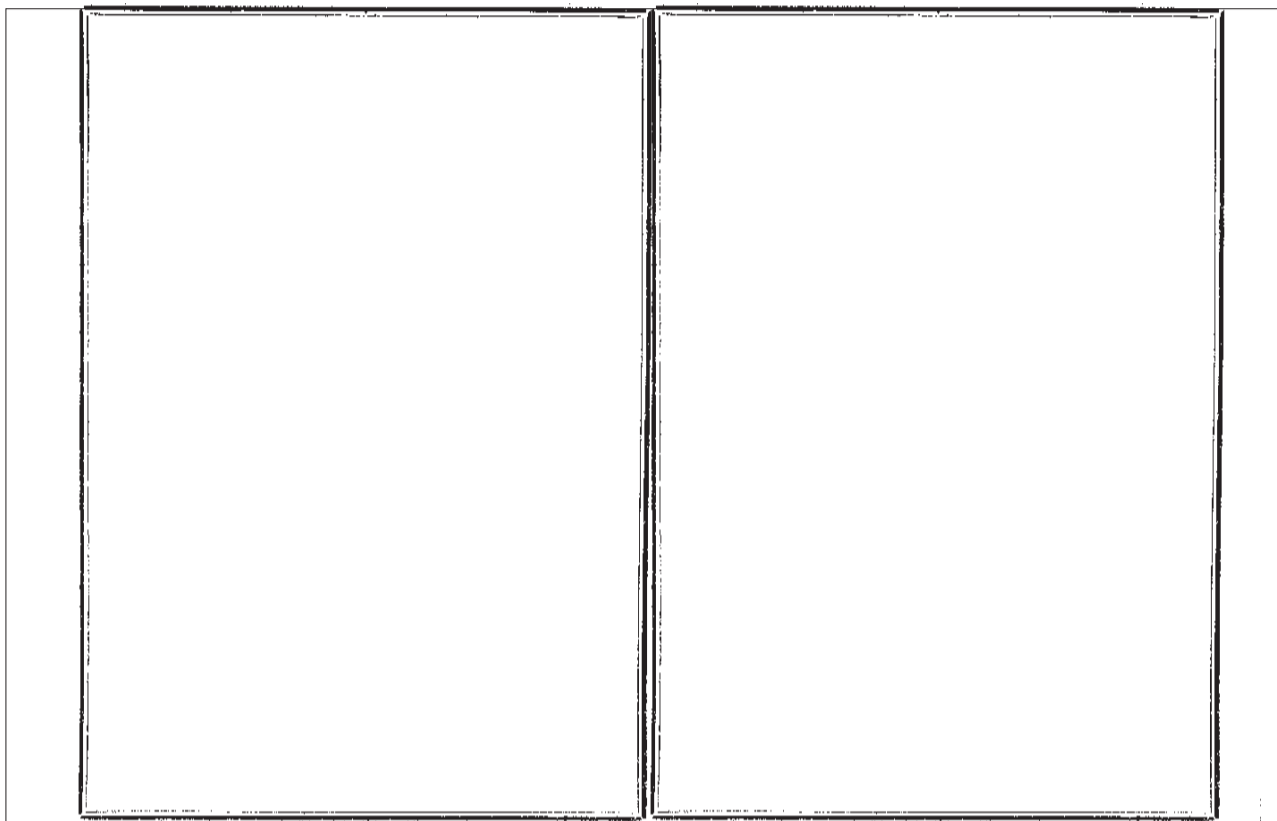


大正五年民團事務報告書

附民團財產明細書

天津居留民團



大正五年民團事務報告書目次

第一 庶務部 一

|                 |    |
|-----------------|----|
| 一、行政委員          | 一  |
| 二、出納検査委員        | 一〇 |
| 三、課金法調査會委員      | 一〇 |
| 四、諸規則の制定及改正     | 一一 |
| 五、個人所有地理立標準     | 一八 |
| 六、豫定道路位置及幅員の變更  | 一九 |
| 七、官地無料使用許可      | 一九 |
| 八、官有地拂下稟請       | 一九 |
| 九、團債起債に關する認可申請  | 二二 |
| 一〇、商業會議所補助繼續    | 二二 |
| 一一、無名街の命名       | 二七 |
| 一二、不用道路の拂下と土地貸下 | 二八 |
| 一三、立太子式奉祝と祝電    | 二八 |
| 一四、大和街水道布設認可    | 二九 |
| 一五、招魂祭執行        | 三〇 |

(1)

第二 財務部 三一

|                            |    |
|----------------------------|----|
| 一六、技師の派遣                   | 三〇 |
| 一七、謝意表彰                    | 三〇 |
| 一八、民間職員                    | 三〇 |
| 一九、出納検査                    | 三一 |
| 二〇、豫備費支出                   | 三一 |
| 二一、人力車不足額及水道公司配當金の受領       | 三一 |
| 二二、慈善基金の支出                 | 三二 |
| 二三、橋立街開修工費の徴收              | 三二 |
| 二四、諸課金負担者數                 | 三三 |
| 二五、大正五年度居留民團歳入出豫算          | 三六 |
| 二六、大正五年度居留民團歳入出追加豫算        | 三七 |
| 二七、大正五年度特別會計天津神社建築費歳入出豫算   | 四七 |
| 二八、大正五年度特別會計天津神社建築費歳入出追加豫算 | 四八 |
| 二九、官有地拂下代金支出年度割額           | 四八 |
| 三〇、天津小學校                   | 四九 |
| 三一、日本圖書館                   | 四九 |

(2)

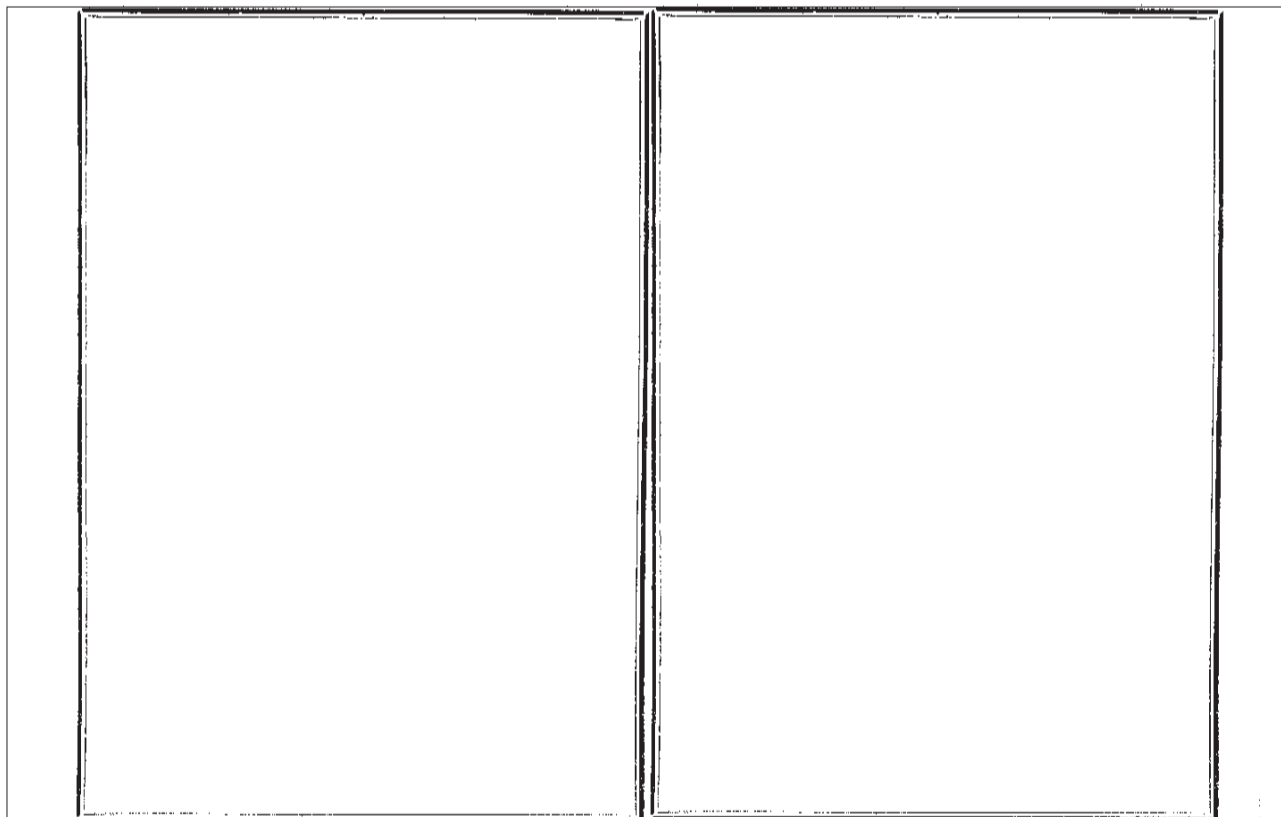
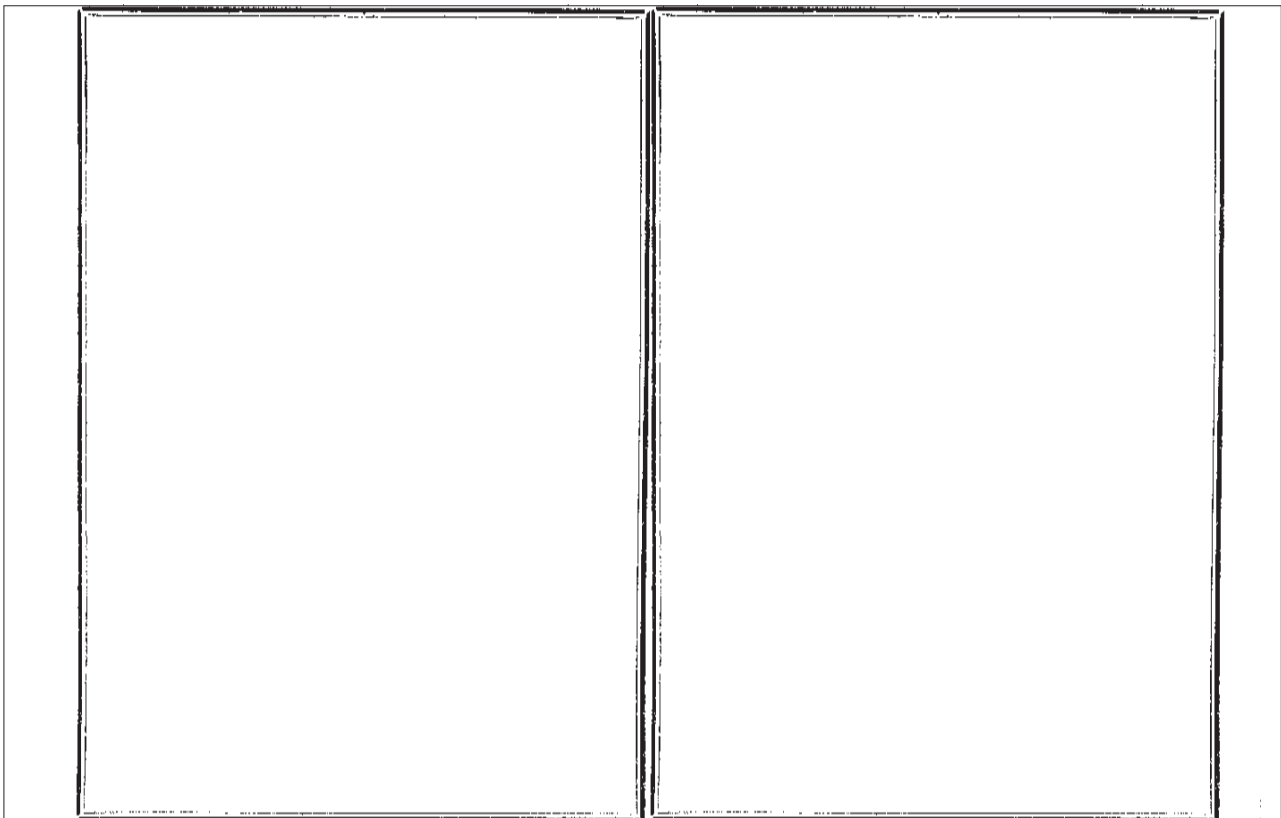
(第四) 土木部 五六

|                |    |
|----------------|----|
| 一、土地及家屋調査の完成   | 五六 |
| 二、新道築造工事       | 五六 |
| 三、秋山街下水溝擴張費の負担 | 五七 |
| 四、水道共用控用メートル變更 | 五七 |
| 五、道路埋立工事       | 五七 |
| 六、下水溝延長と修繕     | 五七 |
| 七、撤水區域の擴張      | 五八 |
| 八、道路の補修        | 五八 |
| 九、街樹の補植        | 五九 |
| 一〇、大和公園        | 五九 |
| (第五) 衛生部 六〇    |    |
| 一、傳染病患者        | 六〇 |
| 二、傳染病室の開設      | 六一 |
| 三、清潔法施行        | 六五 |
| 四、種痘の施行        | 六五 |
| 五、野犬捕殺         | 六五 |
| 六、傳染病室の改修      | 六六 |
| 七、水道水の検査       | 六六 |
| 八、水道給水量        | 六八 |
| 附 録            | 七〇 |

(3)

(4)

目次終



# 天津居留民團事務報告

明治四十年九月九日領事館令特第一號第十九條の規定に違ひ大正五年一月より同十二月に至る一ヶ年間の本民團事務の概要を報告すること左の如し

## 第一 庶務部

### (一) 行政委員

昨年三月改選の行政委員は本年三月二十三日開會の居留民會に於て改選せられ其後二名辭任者ありたり今本年中に於ける議長議長代理者、會計主任及行政委員豫備行政委員等を舉ぐれば左の如し

#### 議長

森 辨 治 郎 大正四年三月重任、大正五年三月任期満了  
 福 山 義 春 大正五年三月就任、大正五年十一月辭任

#### 議長代理者

鈴木 敬 親 大正四年三月就任、大正五年三月任期満了  
 西 村 博 大正五年三月就任

( 2 )

( 1 )

#### 會計主任

西 本 茂 吉 大正四年三月重任、大正五年三月任期満了  
 西 本 茂 吉 大正五年三月重任

#### 行政委員

森 辨 治 郎 大正四年三月重任、大正五年三月任期満了  
 福 山 義 春 全 上  
 小 貫 慶 治 全 上  
 鈴木 敬 親 全 上  
 西 本 茂 吉 全 上  
 西 村 博 大正四年三月就任、大正五年三月任期満了  
 富 成 一 二 大正四年三月重任、大正五年三月任期満了  
 藤 田 語 郎 全 上  
 上 野 壽 大正四年三月就任、大正五年三月任期満了  
 吉 田 房 次 郎 大正四年十一月上、大正五年三月重任、大正五年十一月辭任  
 福 山 義 春 大正五年三月重任、大正五年九月辭任  
 小 貫 慶 治 全 上  
 西 本 茂 吉 全 上  
 鈴木 敬 親 全 上

( 4 )

( 3 )

行政委員會職務章程第十一條の規定に依り本年中委員の事務を分担せること左の如し

豫備行政委員  
 小 島 楠 吉 大正五年三月當選、大正五年八月歸朝  
 原 田 俊 三 郎 大正五年九月行政委員上、大正五年十一月行政委員上、大正五年十一月行政委員上、大正五年十一月行政委員上

財 務  
 西 本 茂 吉 大正四年四月より大正五年三月迄

富 成 一 二 全 上  
 吉 田 房 次 郎 全 上  
 山 元 藏 吉 大正五年三月就任  
 大 村 得 太 郎 全 上  
 西 村 博 全 上  
 橋 本 信 一 全 上  
 原 田 俊 三 郎 大正五年九月上、大正五年十一月上、大正五年十一月上、大正五年十一月上  
 福 本 順 三 郎 大正五年十一月上  
 小 貫 慶 治 大正五年三月當選、大正五年八月歸朝  
 原 田 俊 三 郎 大正五年九月行政委員上、大正五年十一月行政委員上、大正五年十一月行政委員上、大正五年十一月行政委員上  
 沖 田 介 次 郎 全 上  
 鄭 永 昌 全 上  
 福 本 順 三 郎 全 上  
 原 田 俊 三 郎 全 上  
 福 山 義 春 全 上  
 上 野 壽 大正五年四月より  
 西 本 茂 吉 大正五年四月より  
 鈴木 敬 親 全 上  
 小 貫 慶 治 大正五年四月より同年九月迄  
 原 田 俊 三 郎 大正五年十月より  
 福 本 順 三 郎 大正五年十一月より  
 鈴木 敬 親 大正四年四月より大正五年三月迄  
 西 村 博 全 上  
 小 貫 慶 治 大正五年四月より  
 山 元 藏 吉 全 上  
 富 成 一 二 大正四年四月より大正五年三月迄  
 福 山 義 春 全 上  
 吉 田 房 次 郎 大正四年十二月より大正五年三月迄  
 吉 田 房 次 郎 大正五年四月より

(5)

本年中に於ける行政委員會開會數は二十回にして外に特別委員會一回、回覽決議十回なり其決議事項左の如し

一、松村訓導傷疾手当支給の件  
 一、河合氏報酬の件  
 一、大正五年度營業課金負担等級決定の件  
 一、大正五年度取得課金負担額決定の件  
 一、森議長及豊岡財源調査委員へ見舞品贈呈の件  
 一、黒澤理事謝意表彰の件  
 一、黒澤理事謝意表彰の件  
 一、商業會議所補助繼續願の件  
 一、圖書館評議員選定の件

(6)

一、圖書館規則中改正案  
 一、租界局休日中改正案  
 一、天津尋常高等小學校學期中改正案  
 一、大正三年度民團歳入出決算報告の件  
 一、大正三年度民團事務所、公會堂、圖書館附屬家屋建設工費特別會計歳入出決算報告の件  
 一、大正四年度全上決算報告の件  
 一、新道開修工費特別會計歳入出決算報告の件  
 一、特別基金決算報告の件  
 一、大正五年度民團歳入出總豫算案  
 一、臨時傳染病室開始の件  
 一、民會議員名簿登錄の件  
 一、天津神社建築工費特別會計條例案  
 一、大正五年度特別會計天津神社建築費歳入出豫算案  
 一、壽街、扶桑街開修工費徴收に關する件  
 一、新道開修工費特別會計條例中改正案  
 一、暖房煙筒延長に關する件  
 一、家屋調査報酬の件

(7)

一、巡捕俸給規則中改正案  
 一、巡捕貯金規則中改正案  
 一、土木使用人夫賃増額の件  
 一、胡同貸下の件  
 一、課金法調査會條例案  
 一、橋立街開修工費徴收規則案  
 一、役員互選の件  
 一、事務分担の件  
 一、新規取得課金負担等級決定の件  
 一、新規取得課金負担額決定の件  
 一、雇員増加の件  
 一、松村訓導手当増額の件  
 一、大塚雇員手当増額の件  
 一、津村訓導慰勞金支給の件  
 一、下水溝築造及修繕の件  
 一、水道地下ノートル設置の件  
 一、森前議長謝意表彰の件  
 一、松村訓導負傷治療料支給の件

(8)

一、全上傷疾手当支給の件  
 一、新規營業課金負担等級決定の件  
 一、新規取得課金負担額決定の件  
 一、湯屋排水士管理設願の件  
 一、飯下水溝築造の件  
 一、田村軍病院長及日井藥劑官謝意表彰の件  
 一、臨時傳染病室開始の件  
 一、豫定道路位置變更の件  
 一、小學校教員教育觀察に派遣の件  
 一、芙蓉街以南豫定道路幅員變更の件  
 一、大和公園入園者制限の件  
 一、新規取得課金負担額決定の件  
 一、豫備費支出認可申請の件  
 一、官有地拂下に關する件  
 一、官地無料信用繼續願の件  
 一、商業會議所事務室増加貸與に關する件  
 一、胡同拂下出願の件  
 一、民團所有地貸下出願の件

( 9 )

- 一、秋山街管理設に關する道路使用料免除出願の件
- 一、赤山技師大連派遣の件
- 一、小學校教員宿舎修繕の件
- 一、水道料金減額額の件
- 一、津村訓導増俸の件
- 一、新規營業課金負担等級決定の件
- 一、新規取得課金負担額決定の件
- 一、新規雜種課金負担等級決定の件
- 一、立太子式典奉祝に關する件
- 一、立太子式御舉行に對し祝電奉呈の件
- 一、福山前行政委員會議長謝意表彰の件
- 一、臨時傳染病室開始の件
- 一、議長互選の件
- 一、兒童運動場建設寄附金處理の件
- 一、營業課金條例中改正案
- 一、取得課金條例中改正案
- 一、家屋課金條例案
- 一、土地課金條例案

( 10 )

- 一、團債起債の件
  - 一、吏員昇給の件
  - 一、小學校教員昇給の件
  - 一、臨時雇員採用の件
  - 一、會計主任代理者選定の件
  - 一、民間吏員及雇員並に小學校職員年未慰勞の件
  - 一、巡捕年未慰勞の件
- 以上は行政委員會議決事項の重なるものにして事務上に關する協議又は議決したる事項尠からざるも茲に省畧す
- (一) 出納検査委員
- 大正五年三月二十三日開會の居留民會に於て選舉したる出納検査委員は左の如し
- 乙竹茂郎、野澤三郎、中山秀一
- (二) 課金法調査委員
- 課金法調査會條例第三條の規定に依り本年三月開會の居留民會に於て議員側より選舉されたる委員及行政委員側より選舉されたる委員は鈴木敬親、西本茂吉、大村得太郎、山元藏吉、橋本信一、原田俊三郎、福本順三郎、小島楠吉、川西豊藏、沖田介次郎の十名にして四月十八日第一回委員會開會、會長及副會長の互選を行ひ會長に大村得太

( 11 )

- 郎副會長に原田俊三郎當選次て七月四日、十一月二十日、十二月九日の三回委員會を開き調査研究の結果現行課金法中營業課金條例及取得課金條例中改正を加へ又新に家屋課金條例並に土地課金條例を設け之を行政委員會に報告せり
- (四) 諸規則の制定及改正
- 本年中居留民會及行政委員會に於て議決し總領事の認可を得て發布したるもの左の如し
- (イ) 大日本租界局執務時間並に休日中改正の件
- 大日本租界局執務時間並に休日中左の通り改正す
- 一、租界局休日中第四項「清曆一月一日より同三日迄」とあるを「陰曆正月元日」と改む
- 第四項の次に左の一項を加ふ
- 十月靖國神社祭禮日
- (ロ) 日本圖書館規則中改正の件
- 日本圖書館規則中左の通り改正す
- 一、日本圖書館規則第二條中「當分日本俱樂部に設置す」とあるを「大和公園内に設置す」と改む

( 12 )

- 二、同第七條「評議員三名」とあるを「評議員五名」と改む
- ハ、巡捕俸給規則中改正の件
- 巡捕俸給規則中左の通り改正す
- 一、第一條、第二條を左の通り改む
- |     |                    |     |     |
|-----|--------------------|-----|-----|
| 第一條 | 巡捕の月俸を別て特別俸及左の十級とす |     |     |
| 特別俸 | 二十弗以内              | 一級俸 | 十七弗 |
| 二級俸 | 十五弗                | 三級俸 | 十四弗 |
| 四級俸 | 十三弗                | 五級俸 | 十二弗 |
| 六級俸 | 十一弗                | 七級俸 | 十弗  |
| 八級俸 | 九弗                 | 九級俸 | 八弗  |
| 十級俸 | 七弗                 |     |     |
- 巡捕長の月俸は五級俸以上とす
- 第二條 新に巡捕を命ぜられたる者の月俸は十級俸とす
- 二、第三條第一項各號を左の通り改む
- |         |      |
|---------|------|
| 十級俸の者   | 滿三ヶ月 |
| 六級俸以下の者 | 滿六ヶ月 |
| 二級俸以下の者 | 滿一ヶ年 |
| 一級俸の者   | 滿三ヶ年 |



( 14 ) ( 13 )

|  |       |       |       |       |     |      |     |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |  |  |  |
|--|-------|-------|-------|-------|-----|------|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--|--|--|
| <p>第四條 特別の技能又は経歴ある者及功勞顯著なる者若くは一級俸を受け滿二年を経過し職務勉勵成績優等の者に對しては第二條第三條の制限に依らざることを得但し俸給豫算の範圍を超過することを不得</p> <p>附 則<br/>本則は大正五年四月一日より施行す<br/>施行の當時に於ける奉職者の俸給は現に受くる金額に等しき等級に變更せられたるものと看做す</p> <p>巡捕貯金規則中改正ノ件<br/>一、第一條第一項各號を左の通り改む</p> <table border="1"> <tr><td>特別俸</td><td>一弗五十仙</td><td>一級俸</td><td>一弗二十仙</td></tr> <tr><td>二級俸</td><td>一弗十仙</td><td>三級俸</td><td>一弗</td></tr> <tr><td>四級俸</td><td>九十仙</td><td>五級俸</td><td>八十仙</td></tr> <tr><td>六級俸</td><td>七十仙</td><td>七級俸</td><td>六十仙</td></tr> <tr><td>八級俸</td><td>五十仙</td><td>九級俸</td><td>四十仙</td></tr> <tr><td>十級俸</td><td>三十仙</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>二、附則を左の通り改む</p> <p>附 則<br/>本則は大正五年四月一日より施行す</p> <p>ホ 橋立街開修工費徵收規則</p> <p>第一條 橋立街開修工費負担區域は旭街より山口街に至る左右兩側各幅十五間とす</p> <p>第二條 開修工費賦課率は土地一坪に付毎年銀二十仙とす但表通り左右兩側の地主に對しては前項の外間口壹間に付毎年銀壹弗を附加徵收す</p> <p>第三條 工費徵收期間及其期日は壽街、扶桑街開修工費徵收規則第三條の規定を準用す</p> <p>附 則<br/>本則は大正五年四月一日より之を施行す</p> <p>ハ 課金法調査會條例</p> <p>第一條 本民間に課金法調査會を設け其事務所を大日本租界局に置く</p> <p>第二條 本會は本民間の經營に關し必要なる課金改定の方法を調査す</p> <p>第三條 本會に調査委員十名を置き其半数は行政委員中より互選し其半数は居留民會議員中より民會に於て之を選擧す</p> <p>第四條 居留民會選出の委員中に欲員を生したるときは次點者を以て之に充つ</p> <p>本會の正副會長の選舉、權限、調査事項の處分、調査委員の任期、書記の</p> | 特別俸   | 一弗五十仙 | 一級俸   | 一弗二十仙 | 二級俸 | 一弗十仙 | 三級俸 | 一弗 | 四級俸 | 九十仙 | 五級俸 | 八十仙 | 六級俸 | 七十仙 | 七級俸 | 六十仙 | 八級俸 | 五十仙 | 九級俸 | 四十仙 | 十級俸 | 三十仙 |  |  | <p>三、第四條及附則を左の通り改む</p> <p>滿 三ヶ年</p> <p>特別俸の者</p> |
| 特別俸  | 一弗五十仙 | 一級俸   | 一弗二十仙 |       |     |      |     |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |  |  |  |
| 二級俸  | 一弗十仙  | 三級俸   | 一弗    |       |     |      |     |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |  |  |  |
| 四級俸  | 九十仙   | 五級俸   | 八十仙   |       |     |      |     |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |  |  |  |
| 六級俸  | 七十仙   | 七級俸   | 六十仙   |       |     |      |     |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |  |  |  |
| 八級俸  | 五十仙   | 九級俸   | 四十仙   |       |     |      |     |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |  |  |  |
| 十級俸  | 三十仙   |       |       |       |     |      |     |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |  |  |  |

( 16 ) ( 15 )

|  |       |            |         |     |  |            |     |  |            |     |  |            |     |  |         |     |  |          |     |  |         |     |  |           |     |  |           |     |  |         |                          |
|--|-------|------------|---------|-----|--|------------|-----|--|------------|-----|--|------------|-----|--|---------|-----|--|----------|-----|--|---------|-----|--|-----------|-----|--|-----------|-----|--|---------|--------------------------|
| <p>任用及經費の支辨は臨時財源調査會章程第四條乃至第八條の規程を準用す</p> <p>ト 壽街開修工費特別會計條例中改正の件</p> <p>壽街開修工費特別會計條例中改正す</p> <p>一、第四條に左の但書を加ふ</p> <p>但市面の狀況に依り行政委員會の決議を以て三分の一以内を減少することを得</p> <p>チ 新道開修工費特別條例中改正の件</p> <p>新道開修工費特別會計條例中改正す</p> <p>一、「新道開修工費特別會計條例」であるを「橋立街開修工費特別會計條例」と改む</p> <p>但市面の狀況に依り行政委員會の決議を以て年度の延期及三分の一以内の減少を爲すことを得</p> <p>リ 新道開修工費特別會計條例中改正の件</p> <p>新道開修工費特別會計條例中改正す</p> <p>一、「新道開修工費特別會計條例」であるを「扶桑街開修工費特別會計條例」と改む</p> <p>二、第一條中「新道」とあるを「扶桑街」と改む</p> <p>ス 天津神社建築工費特別會計條例</p> <p>第一條 天津神社の建築工事は特別會計とす</p> <p>第二條 建築工事に伴ふ一切の費用は民間歳入及臨時收入を以て之に充つ</p> <p>第三條 建築設計、工事及工費收支等に關しては行政委員會之を定む</p> <p>附 則<br/>本條例は發布の日より施行す</p> <p>ル 營業課金條例中改正の件</p> <p>營業課金條例中改正す</p> <p>一、第二條 營業課金は營業課金負担義務者を左の等級に割當て賦課す</p> <table border="1"> <tr><td>特 等</td><td>年 課 金</td><td>銀 六 百 弗</td></tr> <tr><td>一 等</td><td></td><td>銀 四 百 五十 弗</td></tr> <tr><td>二 等</td><td></td><td>銀 三 百 五十 弗</td></tr> <tr><td>三 等</td><td></td><td>銀 二 百 七十 弗</td></tr> <tr><td>四 等</td><td></td><td>銀 二 百 弗</td></tr> <tr><td>五 等</td><td></td><td>銀 百 三十 弗</td></tr> <tr><td>六 等</td><td></td><td>銀 九 十 弗</td></tr> <tr><td>七 等</td><td></td><td>銀 六 十 五 弗</td></tr> <tr><td>八 等</td><td></td><td>銀 四 十 二 弗</td></tr> <tr><td>九 等</td><td></td><td>銀 三 十 弗</td></tr> </table> | 特 等   | 年 課 金      | 銀 六 百 弗 | 一 等 |  | 銀 四 百 五十 弗 | 二 等 |  | 銀 三 百 五十 弗 | 三 等 |  | 銀 二 百 七十 弗 | 四 等 |  | 銀 二 百 弗 | 五 等 |  | 銀 百 三十 弗 | 六 等 |  | 銀 九 十 弗 | 七 等 |  | 銀 六 十 五 弗 | 八 等 |  | 銀 四 十 二 弗 | 九 等 |  | 銀 三 十 弗 | <p>新道開修工費特別會計條例中改正の件</p> |
| 特 等  | 年 課 金 | 銀 六 百 弗    |         |     |  |            |     |  |            |     |  |            |     |  |         |     |  |          |     |  |         |     |  |           |     |  |           |     |  |         |                          |
| 一 等  |       | 銀 四 百 五十 弗 |         |     |  |            |     |  |            |     |  |            |     |  |         |     |  |          |     |  |         |     |  |           |     |  |           |     |  |         |                          |
| 二 等  |       | 銀 三 百 五十 弗 |         |     |  |            |     |  |            |     |  |            |     |  |         |     |  |          |     |  |         |     |  |           |     |  |           |     |  |         |                          |
| 三 等  |       | 銀 二 百 七十 弗 |         |     |  |            |     |  |            |     |  |            |     |  |         |     |  |          |     |  |         |     |  |           |     |  |           |     |  |         |                          |
| 四 等  |       | 銀 二 百 弗    |         |     |  |            |     |  |            |     |  |            |     |  |         |     |  |          |     |  |         |     |  |           |     |  |           |     |  |         |                          |
| 五 等  |       | 銀 百 三十 弗   |         |     |  |            |     |  |            |     |  |            |     |  |         |     |  |          |     |  |         |     |  |           |     |  |           |     |  |         |                          |
| 六 等  |       | 銀 九 十 弗    |         |     |  |            |     |  |            |     |  |            |     |  |         |     |  |          |     |  |         |     |  |           |     |  |           |     |  |         |                          |
| 七 等  |       | 銀 六 十 五 弗  |         |     |  |            |     |  |            |     |  |            |     |  |         |     |  |          |     |  |         |     |  |           |     |  |           |     |  |         |                          |
| 八 等  |       | 銀 四 十 二 弗  |         |     |  |            |     |  |            |     |  |            |     |  |         |     |  |          |     |  |         |     |  |           |     |  |           |     |  |         |                          |
| 九 等  |       | 銀 三 十 弗    |         |     |  |            |     |  |            |     |  |            |     |  |         |     |  |          |     |  |         |     |  |           |     |  |           |     |  |         |                          |



十 等 同 銀十八弗  
 十一 等 同 銀十二弗  
 十二 等 同 銀六弗

二、附則を左の通り改む  
 本條例は大正六年四月一日より施行す

ラ 家屋課金條例

第一條 本條例は天津日本專管居留地の地域内に於ける建物に對し之を適用す  
 第二條 家屋倉庫其他の建物に對し査定賃借價格の百分の二を所有者に賦課す  
 第三條 前條の建物にして現に使用収益せざるものは所有者の届出に依り課金を半減することを得  
 第四條 前二條の査定並に一切の建物にして賃貸を爲さず所有者自ら使用するもの課金率は第二條に準し行政委員會に於て其價格を査定す  
 第五條 營業課金條例第三條取得課金條例第五條、第六條、第七條及土地課金條例第五條の規定は本條例に之を準用す

附 則

本條例第二條乃至第四條の届出に關しては大正六年に限り一月三十一日を期限とし課金徴收に關しては大正六年四月一日より之を施行す  
 (ウ) 土地課金條例

( 17 )

( 18 )

第一條 本條例は天津日本專管居留地の地域内に於ける土地に對し之を適用す  
 第二條 本居留地内に於ける土地に對しては道路の開修に至る迄地價の百分の二を賦課す  
 但道路開修後は百分の五を賦課す

第三條 前條の地價は行政委員會に於て之を評價決定す

第四條 家屋課金賦課の土地に對しては本條例を適用せす

第五條 天津日本總領事館又は行政委員會に於て公認したる公益の爲めに使用する土地又は特殊の事由に依り行政委員會に於て必要と認めたる土地に對しては課金を免除することを得

第六條 取得課金條例第五條第六條及第七條の規定は本條例に之を準用す

附 則

本條例は大正六年四月一日より施行す

(五) 個人所有地埋立標準

租界内個人所有地埋立方に關しては去る大正三年四月二日附を以て本民間より總領事館へ申請の上花園街道より一尺高に埋立つる標準なりしも租界内下水疎通の關係上芙蓉街以西の個人所有地埋立標準尺を海技(塘沽)の水準を標準とす)十三呎と爲すことに總領事館に申請の上決定し同時に埋立者の便宜を圖り豫定道路の中央に標準石を建設せり

(六) 豫定道路位置及幅員の變更

租界内芙蓉街以西海光寺堤防間に於ける豫定道路位置は去る明治四十二年設定し爾來之を變更せざる方針なりしも該豫定道路に沿ひ家屋を建築するときは銳角の場所多く建築上頗る困難なるを認めたること且つ市街の体裁にも影響するを以て實測の上豫定道路第一號道路以西を直角に變更し尚ほ一號より六號に至る道路の内二號及四號道路の道幅を七間に其他を五間に改め更に宮島街に接する豫定道路幅を七間と爲すことに決定し其旨總領事館へ具申せり

(七) 官地無料使用許可

去る大正二年九月より向ふ三ヶ年間無料使用許可を得たる居留地内第十二區(大和公園)の地區は本年八月三十一日限り使用期間満了につき官有地拂下出願の運びに至る迄従前の條件を以て向ふ三ヶ年間引續き無料使用方八月一日附を以て總領事館に請願し同月二十一日附許可を得たり

(八) 官有地拂下稟請

多年の懸案たりし官有地拂下問題は居留地發展に伴ふ民間諸經費の膨脹に連れ速かに之を解決し以て民間財政の確立を計るの必要を認め本年七月二十六日開會の行政委員會に於て拂下の方法を決定し次で松平總領事館の現狀及民間財政狀況等を政府當局者に陳情方を委託したるに同總領事の格別なる盡力に依り政府當局者に於ても充分本民間の實情を諒するに至り又同總領事より此際至急請願するの好時機なるべしとの注意に依り本年十二月十六日臨時居留民會を開き官有地拂下に關する條件及之れが財源等に就き審議協賛を経て同月二十日附左記の通り總領事館へ稟請せり

官有地拂下に付稟請

當居留民團の財政は逐年膨脹し租界發展に伴ふ自然の増收を以て其支出を償ふ能はず時に課金率を改定して歳入増收を圖り今日に及ひ候處支那第一次革命勃發以來支那人の我居留地内へ移住する者頗る増加し數年ならずして未拂下官有地の全部貸下を了せられたる外客年秋より本秋に至り官有地に隣接せる部分其他の池沼積々埋立てられ既に家屋の新築を了したるもの亦不尠明年に於ては更に其以前に於ける池沼埋立の計畫あり是れが實行の際には我居留地内更に一点の窪地なきに至り漸次家屋の新築あるべく隨て是等發展に伴ふ民間當然の施設として最も急なる道路下水道の築造は一時を竣す可からざる現狀に有之其他遊病院の新築小學校の新築等各般の施設に要する費用を計上する時は意外の巨額に上り租界發展に伴ひ諸稅の自然増收は當然豫期致され候得共約十年間に於ける租界發展に伴ふ自然増收より之を打算する時は前後諸施設費の支拂に到底充分ならず本年度に於ては新に課金法調査會を設け從來の課金率改定並に新稅源の調査を行ひ増收を得る見込なるものにては尙各般の施設費用を支

( 19 )

( 20 )

辦し得る見込相立兼當居留民團の前途誠に不耐久第に有之此際多年懸案と相或居候官有地の拂下を受け本民團の基本財産とし永遠の圖を立て鞏固たる基礎を築き以て確實なる發展を期し度請に貴官御歸朝の嗣本民團財政の現狀今後の施設等申述官有地拂下の價格別の御盡力願出候處當局者に於ても充分事情御了承相成候様承り候に付急遽臨時民會の召集を行ひ之を民會に諮り別記條件を以て官有地拂下出願の事に議決致候間特別の以御詮議御許可相成候様致度左記書類相添へ此段及稟請候敬具

大正五年十二月廿日

天津居留民團  
 行政委員會議長 鈴木 敬 親

在天津  
 總領事 松平 恒雄 殿  
 官有地拂下條件

一、拂下面積  
 四万壹千八百貳拾八坪六合  
 八十坪  
 百貳坪四合

朝鮮公館跡  
 旭街三角地

( 22 )

|              |      |
|--------------|------|
| 參百六拾九坪零七夕    | 市場敷地 |
| 貳千貳百九拾三坪七合   | 第九區  |
| 五千壹百拾參坪八合    | 第六區  |
| 六千零七拾坪七合     | 第十一區 |
| 七千八百八拾合      | 第十二區 |
| 四千九百貳拾四坪五合六夕 | 第十三區 |
| 參千七百九拾四坪一合七夕 | 第十四區 |
| 貳千九百貳拾四坪一合七夕 | 第十六區 |
| 四千壹百貳拾參坪五合四夕 | 第十七區 |
| 四千壹百五拾坪壹合四夕  | 第十八區 |

二、拂下價格  
 金貳拾四万貳千參百七拾九圓拾貳錢六厘

三、拂下代金上納方法  
 拂下價格金貳拾四万貳千參百七拾九圓拾貳錢六厘を十ヶ年賦とし大正六年十二月より毎年壹回十二月金貳万四千貳百參拾七圓九拾壹錢貳厘宛を納付し大正拾五年十二月を以て終りとす

(九) 團債起債に關する認可申請

( 23 )

前記官有地拂下代金に充つる爲め臨時民會に於て拂下代金貳拾四万貳千參百七拾九圓拾參錢に相當する弗銀の團債を起し之を拂下土地の貸貸料及民團歳入を以て十ヶ年間に償還することに議決せるを以て横濱正金銀行天津支店に交渉の上右團債を年六分五厘にて同行より借入ることに決定し本年十二月二十五日左記の通り團債起債の方法及利率並に償還の方法等につき詳細なる説明書を添付し總領事館へ認可申請書を提出せり

- 官有地拂下の件
- 一、居留地内官有地拂下を左記條件を以て外務省に出願すること
  - イ、官有地四萬壹千八百貳拾八坪六合を金貳拾四萬貳千參百七拾九圓拾貳錢七厘を以て拂下を受くること(別表參照)
  - ロ、拂下土地代金は拂下決定の日より滿十ヶ年間に毎年十分の一宛を納入すること
  - 二、拂下代金償還基金として第一項(イ)の金額に相當する弗銀の團債を横濱正金銀行より起すこと
  - 三、團債は拂下土地の貸貸料及民團歳入を以て十ヶ年間に償還すること
  - 四、利率は年六分五厘以内たること
  - 五、拂下に關し官廳の命令條件に對する協定其他一切の方法は行政委員會に一任すること
- (別表)

( 24 )

| 地番號   | 坪數        | 價格         | 單價     | 備考            |
|-------|-----------|------------|--------|---------------|
| 朝鮮公館跡 | 八〇〇〇      | 二、一〇〇、〇〇〇  | 坪二、五〇〇 |               |
| 旭街三角地 | 一〇一、四〇〇   | 二、一三三、〇〇〇  | 坪二、一〇〇 |               |
| 市場敷地  | 三、六九〇、七〇〇 | 九、七〇〇、〇〇〇  | 坪二、五〇〇 |               |
| 第九區   | 二、三三〇、〇〇〇 | 六、〇〇〇、〇〇〇  | 坪二、五〇〇 | 西本氏貸下地        |
| 第十區   | 五、一三三、〇〇〇 | 一、六〇〇、〇〇〇  | 坪三、一五〇 |               |
| 第十一區  | 六、〇七〇、七〇〇 | 一、六〇〇、〇〇〇  | 坪二、六三〇 | 大和公園          |
| 第十二區  | 七、六三〇、〇〇〇 | 五、三三九、五〇〇  | 坪六、〇〇〇 |               |
| 第十三區  | 四、九四〇、五〇〇 | 三、七四〇、一七〇  | 坪七、五五〇 | 領事官金敷地ヲ除キタル半區 |
| 第十四區  | 三、七四〇、一七〇 | 二、九四〇、一七〇  | 坪七、八四〇 |               |
| 第十五區  | 二、九四〇、一七〇 | 二、〇四〇、五九〇  | 坪六、九三〇 |               |
| 第十六區  | 四、一三三、〇〇〇 | 四、一三三、〇〇〇  | 坪一、〇〇〇 | 民團貸下地         |
| 第十七區  | 四、一三三、〇〇〇 | 四、一三三、〇〇〇  | 坪一、〇〇〇 |               |
| 第十八區  | 四、一三三、〇〇〇 | 四、一三三、〇〇〇  | 坪一、〇〇〇 |               |
| 合計    | 四、八八、〇〇〇  | 三、四、三九、三三〇 |        |               |

官有地拂下に付團債起債に關する説明書

一、官有地四萬壹千八百二十八坪六合の拂下代償還基金として金二十四万二千三百七十九圓十二錢七厘に相當する弗銀を横濱正金銀行より借入當ること

|   |   |
|---|---|
| <p>理由</p> <p>償還基金として團債を起すに付は二様の利益を見積りたるものにして償還率を一定すること</p> <p>(イ) 本民團の收支は總て弗銀本位と爲し居れるが故若し金貨勘定の負債を爲し年々之を償還するものとは金銀爲替相場に變動ある爲め正確なる豫算を編成する能はず故に銀貨の團債を起し之を以て金貨を買入れ償還基金として確信なる本邦銀行に預け入れ其内より年々十分の一宛を外務省に納付せしめ一方本民團は團債の十分の一宛を年々正金銀行に返還するの法を取れば茲に償還率を一定し正確なる豫算の編成を爲し得べし</p> <p>(ロ) 約銀參方七千九百三十二弗二十三仙の利益を見積り得べきこと</p> <p>既往十年間に於ける金銀爲替相場の平均率を見るに大約金貨一圓に對し銀貨一弗十仙内外の程度にありき目下の如き金一圓に對し銀八十五仙の相場を算するは殆んど稀有の事に屬す故に此際仮に金貨一圓に對し銀八十五仙の割合を以て交換とせんか假令二分の利子差額(團債は六分五厘の利子を付し償還基金預金には四分五厘の利子を收入し得別表添付第一號參考表)を支拂ふも十ヶ年間に於ける前掲の利益を見るを得べし尙償還基金利子は金貨勘定なれば金貨の昂騰に從ひ利益は益々増大せらるべし試に數字を以て之を表示せん</p> <p>銀二十万六千二百二十六仙      團      債</p> <p>銀二万二千六百六十二弗五十五仙      十ヶ年利子の差額支拂合計</p> <p>合計銀二十二万八千六百八十四弗八十一仙      十ヶ年間償還額</p> <p>銀二十六万六千六百七十七弗零四仙</p> <p>金二十四万二千三百七十九圓十三錢を平均相場金一圓に付銀一弗十仙の割合にて計算せる金額</p> <p>差引銀三万七千九百三十二弗二十三仙      利      益</p> <p>二、團債は官有地拂下の許可を得たる時直に着手すること</p> <p>三、團債は年利六分五厘にて借入れ當年より十ヶ年賦を以て償還すること</p> <p>四、團債を以て金貨を買入れ年四分五厘を以て横濱正金銀行に預入ること</p> <p>五、團債は左記財源に據り之を償還す</p> <p>一、民團歳入</p> <p>二、拂下を受けたる土地より收入すべき賃地料</p> <p>收支概算</p> <p>支出の部</p> | <p>一銀二十万六千零二十二弗二十六仙團債(金貨一圓を弗銀八十五仙を以買)入得べきものとして計算す)</p> <p>一銀七万三千六百五十二弗九十五仙      十ヶ年間の利子</p> <p>合計銀二十七万九千六百七十五弗二十一仙</p> <p>収入の部</p> <p>一銀五万零九百九十弗四十仙      金貨預入利子</p> <p>金貨勘定利子金五万九千九百八十八圓八十三錢を金貨一圓に對し弗銀八十五仙の割合にて換算</p> <p>一銀二十二万三千一百三十八弗      十ヶ年間に於ける拂下地賃地料</p> <p>一銀五千五百四十六弗八十一仙      民間課金より補充</p> <p>合計銀二十七万九千六百七十五弗二十一仙也      (別表參照)</p> <p>(別表は之を畧す)</p> <p>(一〇) 商業會議所補助繼續</p> <p>天津日本人商業會議所に對し去る大正二年四月一日より三ヶ年間毎年銀七百五十弗を本民團より補助し來り本年三月三十一日限り右補助期間満了の處同所會頭森辨治郎より更に本年四月一日より向三ヶ年間從前の通り補助繼續方請願ありれば行政委員會に於て審議の結果民團財政の都合上補助年額銀五百弗に減額することに決し次て本年三月開會の第九次通常民團の協賛を経て四月一日より實行せり</p> |
|---|---|

|  |                  |
|--|------------------|
| <p>(一) 無名街の命名</p> <p>租界内大和街街交点より起り旭街を横斷し南市街(支那街)に至る五間幅新道路を「扶桑街」と又山口街(共立學校角)より起り西南に向ひ壽街旭街を横斷して日支境界線に達する五間幅新道路を「橋立街」と命名の旨本年三月七日總領事館より告示せらる</p> <p>(二) 不用道路の拂下と土地貸下</p> <p>支那街針市西南側東居住支那人王得勝より家屋建築の目的を以て租界内大和街西胡同の一部此坪數九坪四合の拂下方願出たるに依り調査の結果交通上支障なく且つ永久道路として保有し置くの必要なものと認め行政委員會に於て一坪につき銀二十弗にて拂下することし總領事の認可を得本年十月九日拂下を許可せり</p> <p>又福島街踏子製造業成順新三より昨年六月同人に貸下けたる民團所有地(駐屯軍商發電所前土地)に接續せる土地二百七坪三合八分を家屋建築の目的を以て貸下方願出たるにつき審議の上曩に許可せる貸下條件の外に貸下期間満了の上土地返納の場合には現形の儘之を返納すること及條件違背に因り貸下を取消されたる場合は同じとの二條件を加へ一坪につき一ヶ月銀六仙を以て本年十月二十一日より向五ヶ年間貸下を許可す</p> <p>(一三) 立太子式奉祝と祝電</p> | <p>立太子式奉祝と祝電</p> |
|--|------------------|



本年十一月三日御舉行の立太子式奉祝の爲め駐屯軍、總領事館及本民團主催の下に官民合同の祝賀會を同日午後三時より公會堂に於て開催したるに來會者約一千人に達し先づ西村行政委員會議長代理の開會の辭あり次て來會者一同「君ケ代」を三唱し終りて吉田總領事代理の祝詞朗讀、石光司令官の發聲にて一同 皇太子殿下の萬歳を三唱し式を了し直ちに開宴種々の餘興を開始し盛會を極めたり尙當日午前八時三十分萬歳奉唱の時刻を以て本民團より宮内大臣宛左の祝電を發したり

謹みて立太子の禮を行はせらるゝを祝賀し奉る  
右御執奏を請ふ

支那天津居留民團  
行政委員議長 福 山 義 春

宮内大臣男爵波多野敬直殿  
又奉祝會費總額銀五百九十八兩六拾六仙は立太子式紀念の意味にて近く設置せらるべき兒童運動場設置基金へ寄附することとし石光駐屯軍司令官より同目的を以て寄附されたる金三百圓と共に本民團へ引繼ぎたり

(一四) 大和街水道布設認可

天津濟安自來水公司より支那街の南部及日本租界に直接給水の目的を以て旭街東南城角より大和街送水塔建設豫定地迄水道管延長方願出たるにつき昨年締結せる送水塔建設及水道布設契約第三條の規定に依り本年九月十八日右布設の件認可せり

(一五) 招魂祭執行

本年十月二十三日午前十時より大和公園内北清戰役紀念碑前に於て例年の通り民團主催の下に招魂祭執行神官祝詞、僧侶讀經祭典委員祭文朗讀及軍司令官、總領事、陸軍將校、地方文官、有位勳者遺族小學校生徒一般參列者等の順序にて參拜を爲し直ちに直會を開き正午十二時最と靜肅に式を了せり

(一六) 技師の派遣

本年十月十三日下水排出其他の設備視察の爲め本民團技師赤山今朝治を大連に派遣し同地設備の模様等調査の上同月二十一日歸津せり

(一七) 謝意表彰

本年三月任期満了歸朝せられたる行政委員會議長森辨治郎及同年十一月辭任歸朝せられたる前行政委員會議長福山義春の兩名に對し多年本民團の爲め盡されたる功勞に對し謝意表彰の印として行政委員會議の決議に依り謝狀に各金壹圓を添へ贈呈せり又當居留地公衆衛生上多大の援助と便宜を與へられたる前駐屯軍病院院長田村俊次に銀製花瓶一對に謝狀を添へ贈呈し同院附藥劑官日井順太郎に謝狀を贈り謝意を表せり

(一八) 民團職員

本年八月三日西山銳雄を職員に採用したる外異動なし現在員左の如し

|         |       |
|---------|-------|
| 理事      | 天野健藏  |
| 理事      | 田中鏘太郎 |
| 理事      | 黒澤兼次郎 |
| 技師      | 赤山今朝治 |
| 書記      | 空山關實  |
| 書記      | 内山甚吉  |
| 職員      | 大塚文四郎 |
| 職員      | 西山銳   |
| 職員      | 村山利男  |
| 事務囑託    | 松村利男  |
| 外備支那人三名 |       |

第二、財務部

(一) 出納検査

本年中に於ける民團出納検査は三月及十二月〇二回執行せられ其都度會計主任并に民團關係職員出席し總て違法の出納及違算なきを認めらる

(二) 豫備費支出

本年二月以降傳染病患者續發し大正五年豫算中傳染病豫防費に不足を生じたるを以て七月二十八日總領事館へ左の通り豫備費支出の件申請し同二十九日認可を受く

大正五年豫算

一 銀壹千弗也

内

銀壹千弗也

銀壹千弗也

(三) 人力車不足額及水道公司配當金の受領

電車布設契約に依り昨年十一月より本年十月に至る一ヶ年間の營業人力車不足額銀壹千八百九拾四兩を電車公司より受領せり而して前記補足額が契約第三條に依り本民團へ分配すべき配當金(銀九百九拾四兩貳拾五兩)よりも多額なりしを以て別に配當金の支拂を受けざりき

又昨年水道給水契約締結と同時に天津濟安自來水公司より買收したる同公司株券二十株(額面貳千兩)に對する千九百十五年中の利益配當金百四十兩を本年三月同公司より受領せり

(四) 慈善基金の支出

本年十月行旅死亡者大西某復埋葬費銀拾五兩八拾五仙及十二月福島街居住山内政明歸國旅費銀二十四兩九拾仙(金三十圓の換算額)を何れも警察署の請求に依り慈善基金より支出せり

(五) 橋立街開修工費の徴收

臨時衛生費補充額

傳染病豫防費

豫備費支出額

(30)

(29)

(32)

(31)

( 34 )

| 級  | 營業課金負担者 |     | 支那人 | 計   |
|----|---------|-----|-----|-----|
|    | 日本人     | 支那人 |     |     |
| 一等 | 五       | 一   | 一   | 六   |
| 二等 | 三       | 一   | 一   | 四   |
| 三等 | 四       | 一   | 一   | 八   |
| 四等 | 七       | 一   | 一   | 一〇  |
| 五等 | 八       | 一   | 一   | 一七  |
| 六等 | 二       | 一   | 一   | 二一  |
| 七等 | 一       | 一   | 一   | 二一  |
| 八等 | 二       | 一   | 一   | 三三  |
| 九等 | 三       | 一   | 一   | 三三  |
| 十等 | 五       | 一   | 一   | 三九  |
| 合計 | 二五八     | 一四一 | 一四一 | 六六九 |

一、旅館 日本人 四等 五等 支那人 三等 四等 計 八

( 33 )

去る大正三年發布したる新道開修工費特別會計條例に依り開修したる橋立街道路は昨年四月完成せるを以て同條例第二條の規定に依り本年三月該工費徵收規則を制定し四月一日より實施せり

(六) 諸課金負担者數

本年中に於ける諸課金負担者數左の如し

大正五年十二月末調査

| 金額    | 日本人 | 支那人 | 計   |
|-------|-----|-----|-----|
| 百弗以上  | 二   | 二   | 二   |
| 八十弗以上 | 五   | 二   | 七   |
| 六十弗以上 | 三   | 一   | 四   |
| 五十弗以上 | 二   | 一   | 三   |
| 四十弗以上 | 七   | 二   | 九   |
| 三十弗以上 | 六   | 三   | 九   |
| 二十弗以上 | 四   | 三   | 七   |
| 十弗以上  | 六   | 三   | 九   |
| 五弗以上  | 九   | 三   | 一二  |
| 合計    | 一八〇 | 一五七 | 三三七 |

( 36 )

(備考) 藝妓數は十二月末現在數を掲ぐ

| 種別      | 甲  | 乙  | 計  |
|---------|----|----|----|
| 一〇、酌婦   | 二九 | 三二 | 六〇 |
| 一一、常設興行 | 七  | 一  | 八  |
| 一二、藝妓置屋 | 一  | 一  | 二  |
| 一三、檢番   | 一  | 一  | 二  |

(備考) 前年に比し取得課金負担者五十六名營業課金四十九名、雜種課金中料理店一名、湯屋一名、遊藝業一名、遊藝師匠三名、酌婦五名、常設興行者一名増し藝妓中支那人一名、藝妓置屋一名減少せり

(七) 大正五年度居留民團歳入出豫算

| 歳入                  | 經常部豫算高 | 臨時部豫算高 |
|---------------------|--------|--------|
| 一、銀拾貳萬參千貳百八拾六弗貳拾六仙也 | 經常部豫算高 | 臨時部豫算高 |
| 二、銀八千四百九拾五弗貳拾七仙也    | 經常部豫算高 | 臨時部豫算高 |
| 合計銀拾參萬零千七百八拾壹弗五拾叁仙也 | 經常部豫算高 | 臨時部豫算高 |
| 歳出                  | 經常部豫算高 | 臨時部豫算高 |
| 一、銀拾萬五千四百八拾四弗七拾八仙也  | 經常部豫算高 | 臨時部豫算高 |
| 二、銀貳萬六千貳百九拾六弗七拾五仙也  | 經常部豫算高 | 臨時部豫算高 |
| 合計銀拾壹萬零千七百八拾壹弗五拾叁仙也 | 經常部豫算高 | 臨時部豫算高 |

( 35 )

| 種別     | 日本人 | 支那人 | 計   |
|--------|-----|-----|-----|
| 二、料理店  | 四   | 三   | 七   |
| 三、飲食店  | 三   | 二   | 五   |
| 四、湯屋   | 一   | 一   | 二   |
| 五、理髮業  | 二   | 一   | 三   |
| 六、遊藝業  | 二   | 一   | 三   |
| 七、遊藝師匠 | 二   | 一   | 三   |
| 八、按摩   | 二   | 一   | 三   |
| 九、藝妓   | 三   | 一   | 四   |
| 合計     | 一〇六 | 九一  | 一九七 |

( 28 ) ( 37 )

| 科 目        | 歲 入       |           | 印 入<br>印 入<br>比較增減 |
|------------|-----------|-----------|--------------------|
|            | 本年度豫算額    | 前年度豫算額    |                    |
| 第一款 居留民團課金 | 二五,六七〇,〇〇 | 二四,六四二,〇〇 | 一,〇二七,九九           |
| 一、取得課金     | 七,五八〇,〇〇  | 七,七七一,〇〇  | 一三七,〇〇一            |
| 二、營業課金     | 一八,〇九〇,〇〇 | 一六,七四五,〇〇 | 一,三四五,〇〇〇          |
| 第二款 雜種課金   | 一九,六六〇,〇〇 | 一八,九六四,〇〇 | 六九六,〇〇〇            |
| 一、藝妓       | 一三,三九八,〇〇 | 一二,四八〇,〇〇 | 九一八,〇〇〇            |
| 二、酌婦       | 一,〇八〇,〇〇  | 一,〇五六,〇〇  | 二四,〇〇〇             |
| 三、旅館       | 三九六,〇〇    | 三六〇,〇〇    | 三六,〇〇〇             |
| 四、料理店      | 二,〇六四,〇〇  | 二,一六〇,〇〇  | 九〇四,〇〇〇            |
| 五、飲食店      | 一六二,〇〇    | 一六二,〇〇    | 〇                  |
| 六、湯屋       | 四八,〇〇     | 四八,〇〇     | 〇                  |
| 七、理髮業      | 一六八,〇〇    | 一七四,〇〇    | 六,〇〇〇              |
| 八、遊藝業      | 一一〇,〇〇    | 一一〇,〇〇    | 〇                  |
| 九、遊藝師      | 一一〇,〇〇    | 一一〇,〇〇    | 〇                  |
| 十、按摩師      | 六〇,〇〇     | 六〇,〇〇     | 〇                  |
| 十一、藝妓置屋    | 八七六,〇〇    | 八六四,〇〇    | 一二,〇〇〇             |
| 十二、常設興行    | 八四〇,〇〇    | 八四〇,〇〇    | 〇                  |
| 十三、檢番      | 三六〇,〇〇    | 五四〇,〇〇    | 一八〇,〇〇〇            |
| 十四、臨時興行    | 二五〇,〇〇    | 二五〇,〇〇    | 〇                  |
| 第三款 使用料    | 三一,二八四,二六 | 三一,六八一,二六 | 三九七,〇〇〇            |
| 一、繫留料      | 二五,〇〇〇    | 二五,〇〇〇    | 〇                  |
| 二、貨物陸上料    | 三〇,〇〇〇    | 六〇,〇〇〇    | 三〇,〇〇〇             |
| 三、碼頭使用料    | 二〇,〇〇〇    | 二〇,〇〇〇    | 〇                  |
| 四、民船料      | 一〇,〇〇〇    | 二〇,〇〇〇    | 一〇,〇〇〇             |
| 五、舢板船料     | 五〇,〇〇〇    | 五〇,〇〇〇    | 〇                  |
| 六、公會堂使用料   | 三〇〇,〇〇〇   | 三〇〇,〇〇〇   | 〇                  |
| 七、道路使用料    | 五〇〇,〇〇〇   | 五八五,〇〇〇   | 八五,〇〇〇             |
| 八、水道料      | 二九,〇二一,五〇 | 二九,〇二一,五〇 | 〇                  |
| 九、土地使用料    | 五九,七六六    | 五九,七六六    | 〇                  |
| 十、市場使用料    | 九七八,〇〇〇   | 九六〇,〇〇〇   | 一八,〇〇〇             |
| 十一、墓地使用料   | 二〇〇,〇〇〇   | 二〇〇,〇〇〇   | 〇                  |
| 第四款 手数料    | 四一,七八五,〇〇 | 四二,二三一,〇〇 | 四四六,〇〇〇            |
| 一、營業人力車    | 二五,〇九五,〇〇 | 二五,〇九五,〇〇 | 〇                  |

( 40 ) ( 39 )

| 科 目         | 歲 出        |            | 比較增減      |
|-------------|------------|------------|-----------|
|             | 本年度豫算額     | 前年度豫算額     |           |
| 第一款 事務所費    | 一七,〇三四,三六  | 一六,九九三,七五  | 四〇,六一     |
| 一、俸給及手當     | 一〇,八五四,〇〇  | 一〇,八五二,五〇  | 一,五〇〇     |
| 二、備用品費      | 一〇,〇〇〇,〇〇  | 二八八,〇〇〇    | 一八八,〇〇〇   |
| 三、消耗品費      | 六四九,六五     | 六一四,八〇     | 三四,八五     |
| 四、修繕費       | 八〇九,〇〇     | 一五〇,〇〇     | 六五九,〇〇    |
| 第二款 臨時費     | 一三二,七八一,五三 | 一三三,八三八,一〇 | 二,〇五六,五七  |
| 一、前年度繰越金    | 八,四九五,二七   | 一,〇〇〇,〇〇   | 一,〇〇〇,〇〇  |
| 二、前年度繰越金    | 一,四九五,二七   | 一,一七〇,二八   | 二二五,〇〇    |
| 三、立街開修街橋費   | 一,〇〇〇,〇〇   | 一,〇〇〇,〇〇   | 〇         |
| 四、徵收金       | 一,〇〇〇,〇〇   | 一,〇〇〇,〇〇   | 〇         |
| 第三款 剩餘金     | 八,四九五,二七   | 一,一七〇,二八   | 二,〇五六,五七  |
| 合計          | 三一,二八四,二六  | 三一,六八一,二六  | 三九七,〇〇〇   |
| 四、雜收        | 一九〇,〇〇     | 九〇,〇〇      | 一〇〇,〇〇    |
| 一、自用馬車      | 二,一〇〇,〇〇   | 二,二〇〇,〇〇   | 一〇〇,〇〇〇   |
| 二、營業馬車      | 四〇〇,〇〇     | 四五六,〇〇     | 五六,〇〇〇    |
| 三、自用馬車      | 一八〇,〇〇     | 一八〇,〇〇     | 〇         |
| 四、自動馬車      | 三〇〇,〇〇     | 三六〇,〇〇     | 一八〇,〇〇〇   |
| 五、自動馬車      | 三〇〇,〇〇     | 三〇〇,〇〇     | 〇         |
| 六、自動馬車      | 三〇〇,〇〇     | 三〇〇,〇〇     | 〇         |
| 七、大車        | 七,五〇〇,〇〇   | 六,〇〇〇,〇〇   | 一,五〇〇,〇〇〇 |
| 八、中車        | 三〇〇,〇〇     | 三〇〇,〇〇     | 〇         |
| 九、小車        | 二一〇,〇〇     | 三二四,〇〇     | 一一四,〇〇〇   |
| 十、地扒        | 一,五〇〇,〇〇   | 一,五〇〇,〇〇   | 〇         |
| 十一、行商       | 四,四〇〇,〇〇   | 四,四〇〇,〇〇   | 〇         |
| 第十二款 財產出生收入 | 一五〇,〇〇     | 一五〇,〇〇     | 〇         |
| 一、預金利息      | 一五〇,〇〇     | 一五〇,〇〇     | 〇         |
| 第三款 授業料     | 二,〇二五,〇〇   | 二,〇二五,〇〇   | 〇         |
| 一、授業料       | 二,〇二五,〇〇   | 二,〇二五,〇〇   | 〇         |
| 第四款 雜業料     | 二,〇二五,〇〇   | 二,〇二五,〇〇   | 〇         |
| 一、貸家料       | 二,〇二五,〇〇   | 二,〇二五,〇〇   | 〇         |
| 二、大和街撤水費    | 一,八六〇,〇〇   | 一,八六〇,〇〇   | 〇         |
| 三、暖房費       | 一六〇,〇〇     | 一六〇,〇〇     | 〇         |

( 42 )

( 41 )

|               |           |           |          |
|---------------|-----------|-----------|----------|
| 四、修<br>道費     | 一六、三六三、〇〇 | 一五、八三八、〇〇 | 五二五、〇〇   |
| 五、撤<br>水費     | 三、六八七、七二  | 三、二二八、〇〇  | 四九九、七二   |
| 六、點<br>燈費     | 四、一三三、五〇  | 四、二二五、〇〇  | 七九、〇〇    |
| 七、植<br>樹費     | 五六〇、〇〇    | 四四五、〇〇    | 一五、〇〇    |
| 八、碼<br>頭費     | 五〇〇、〇〇    | 一〇〇、〇〇    | 四〇、〇〇    |
| 九、雜<br>費      | 三〇六、八三    | 一八〇、八三    | 一二六、〇〇   |
| 第四款 水<br>道費   | 二一、五七七、四五 | 二一、八七六、七〇 | 二九九、二五   |
| 一、俸<br>給費     | 五四〇、〇〇    | 五四〇、〇〇    | 六四八、〇〇   |
| 二、修<br>繕費     | 一、八二四、〇〇  | 一、一七六、〇〇  | 一五〇、〇〇   |
| 三、メ<br>ートル檢査料 | 一五〇、〇〇    | 一五九、二〇    | 一〇、九七、二五 |
| 四、器<br>具費     | 一五九、二〇    | 一九、九五〇、〇〇 | 一、〇〇     |
| 五、水<br>代費     | 一八、八五二、七五 | 一九、九五〇、〇〇 | 一、〇〇     |
| 六、雜<br>費      | 五一、五〇     | 五一、五〇     | 一、〇〇     |
| 第五款 教<br>育費   | 一〇、一二四、〇三 | 九、二四一、九八  | 八八二、四五   |
| 一、俸<br>給費     | 三、七三六、〇〇  | 三、九二一、五〇  | 一八五、五〇   |
| 二、手<br>當費     | 三、三四五、〇〇  | 二、九三〇、〇〇  | 四一五、〇〇   |
| 三、修<br>繕費     | 六四五、〇〇    | 四三〇、〇〇    | 二一五、〇〇   |
| 四、圖<br>書費     | 四八、五〇     | 二八、五〇     | 二〇、〇〇    |

( 44 )

( 43 )

|              |           |           |        |
|--------------|-----------|-----------|--------|
| 五、校<br>具費    | 三七、〇〇     | 二一、〇〇     | 一六、〇〇  |
| 六、校<br>具費    | 四九五、〇〇    | 四一九、〇〇    | 三六、〇〇  |
| 七、消<br>耗品費   | 五五九、一〇    | 四九五、九〇    | 六三、二〇  |
| 八、旅<br>費     | 二〇〇、〇〇    | 一〇〇、〇〇    | 一〇、〇〇  |
| 九、通<br>信費    | 七三、八〇     | 七三、八〇     | 一〇、〇〇  |
| 十、保<br>險費    | 一〇五、〇〇    | 一〇一、二五    | 三、七五   |
| 十一、新<br>聞雜誌料 | 三七、三〇     | 二五、三三     | 一、〇〇   |
| 十二、學<br>校園費  | 二六、〇〇     | 二〇、〇〇     | 六、〇〇   |
| 十三、研<br>究會費  | 四二、〇〇     | 四二、〇〇     | 六、〇〇   |
| 十四、雜<br>費    | 八四、八〇     | 六三、三八     | 一八一、〇〇 |
| 第六款 衛<br>生費  | 三、六五九、五五  | 三、二一三、〇五  | 四四六、五〇 |
| 一、俸<br>給費    | 二、三三七、〇〇  | 二、三三七、〇〇  | 一、〇〇   |
| 二、被<br>服費    | 三〇、八〇     | 三〇、八〇     | 一、〇〇   |
| 三、消<br>耗品費   | 九〇、〇〇     | 九〇、〇〇     | 一、〇〇   |
| 四、藥<br>具費    | 一二六、五〇    | 一二六、五〇    | 一、〇〇   |
| 五、器<br>具費    | 六二、〇〇     | 一〇六、〇〇    | 一、〇〇   |
| 六、修<br>繕費    | 七〇、〇〇     | 三〇、〇〇     | 一、〇〇   |
| 七、關<br>託醫手當費 | 六〇、〇〇     | 六〇、〇〇     | 一、〇〇   |
| 八、種<br>痘費    | 八〇、〇〇     | 八〇、〇〇     | 一、〇〇   |
| 九、市<br>場費    | 一九三、七五    | 三四三、七五    | 一五〇、〇〇 |
| 十、野<br>犬捕殺費  | 五四、五〇     | 一五、〇〇     | 五〇     |
| 十一、雜<br>費    | 一五、〇〇     | 一五、〇〇     | 一、〇〇   |
| 第七款 警<br>備費  | 一六、五〇一、三六 | 一六、九七四、三八 | 四七三、〇二 |
| 一、俸<br>給及手當費 | 一〇、六八二、一八 | 一〇、六六四、一八 | 一八、〇〇  |
| 二、巡<br>捕被服費  | 二、五八五、八〇  | 二、九六四、六〇  | 三七八、八〇 |
| 三、巡<br>捕備品費  | 三三、三〇     | 三三、三〇     | 一〇、〇〇  |
| 四、巡<br>捕消耗品費 | 六八四、〇八    | 五三三、三〇    | 一四五、七八 |
| 五、家<br>賃及修繕費 | 一、〇九九、〇〇  | 一、〇二九、〇〇  | 七〇、〇〇  |
| 六、巡<br>捕樂費   | 二四〇、〇〇    | 二四〇、〇〇    | 一、〇〇   |
| 七、消<br>防被服費  | 三一、五〇     | 三三、〇〇     | 一、〇〇   |
| 八、消<br>防器具費  | 四四五、〇〇    | 三五二、五〇    | 九二、五〇  |
| 九、消<br>防消耗品費 | 九二、〇〇     | 九二、〇〇     | 一、〇〇   |
| 十、消<br>防手當費  | 四七九、五〇    | 五〇六、五〇    | 二七、〇〇  |
| 十一、雜<br>費    | 一二九、〇〇    | 三三四、〇〇    | 二〇、〇〇  |
| 第八款 圖<br>書館費 | 九〇七、九〇    | 一、〇〇三、七〇  | 二〇、〇〇  |
| 一、俸<br>給費    | 三三五、〇〇    | 三三五、〇〇    | 九五、八〇  |





|   |           |
|---|-----------|
| 全 | 大正七年度支出額  |
| 全 | 大正八年度支出額  |
| 全 | 大正九年度支出額  |
| 全 | 大正十年度支出額  |
| 全 | 大正十一年度支出額 |
| 全 | 大正十二年度支出額 |
| 全 | 大正十三年度支出額 |
| 全 | 大正十四年度支出額 |
| 全 | 大正十五年度支出額 |

第三、學務部

(一) 天津小學校  
 本年一月六日總領事館より左記寫の通り教育に關する御沙汰につき通牒ありたるに依り直ちに天津小學校へ移牒せり  
 大正四年十二月十日  
 内閣總理大臣伯爵 大隈重信

外務大臣男爵 石井菊次郎 殿  
 通牒

本日文部大臣を御前に召させられ左の御沙汰あらせられ候  
 追て關係の府廳部局へは可然通達相成度候

御沙汰寫

皇考夙に心を教育の事に勞せられ制を定め命を布き又教して其の大綱を昭にしたまへり朕遺緒を紹述して倍々其の振興を圖らんとす今や人文日進の時に方り教育の任に在る者克く朕か意を體し以て皇考の遺訓を對揚せむことを期せよ

立太子禮祝賀式

本年十一月三日午前九時より天津小學校に於て立太子禮祝賀式を舉行し式後生徒一同教員引率の許に租界内各街旅行列を爲し大和公園公會堂に參集萬歳を三唱して午前十一時散會せり尙當日立太子式奉祝會より生徒一同に菓子を持たせられたり

教育視察派遣

天津小學校教員を毎年一名宛隨暇歸朝の序を以て夏期講習會に派遣するを例とし來りたるも本年よりは更に二名の教員を本邦各府縣に派遣し教育狀況の視察を爲さしむるの有益なるを認め夏期休暇を以て井上、田川の兩訓導を派遣することに決し兩訓導には本年六月二十七日出發し井上訓導には東京高等師範學校附屬小學校、日本橋區常盤尋常小學校、本郷區誠之尋常小學校、長野縣長野師範學校附屬小學校、同松本市松本

尋常高等小學校、田川訓導には福岡縣椎田尋常高等小學校、同行橋尋常高等小學校、福岡縣師範學校附屬小學校、福岡縣女子師範學校附屬小學校、福岡市立高等小學校、若松市濱町尋常小學校、門司鎮町尋常小學校、大分縣中津町尋常高等小學校、廣島高等師範學校附屬小學校、同附屬中學校、廣島市女子高等小學校、同播磨屋町尋常小學校等各教育狀況を視察し井上訓導は七月三十日田川訓導は八月三十一日歸津し何れも教育狀況視察報告を爲したり

授業料免除

天津小學校生徒四宮茂子(尋常科第二學年)は父病死し母は三兒を伴ひて歸國することとなり同人は當地の知己に扶けられ通學するの構むべき状態なりしを以て小學校長の申請に依り學則第三十條の規定に依り本年十一月より授業料を免除せり

松村訓導傷病手当給與

昨年十月五日天津小學校秋季運動會の際右手關節部を負傷せる松村訓導に對し行政委員會の決議に依り傷病手当として銀參百零四圓拾仙(大正四年十月五日より大正五年三月三十一日迄百七十九日分一弗七十仙の額)を給與せり

小學校職員研究會と諸會

本年中に於ける職員教育學術研究會として左の通り授業術研究會七回及研究報告會六回開會せり又例年の通り本年三月十一日學藝會一回、十一月十八日父兄會を兼ね學藝會一回並に五月五日十月八日春秋二季運動會を開催せり

|        |                           |      |
|--------|---------------------------|------|
| 一月二十四日 | 尋常二學年手工科批評授業              | 正村訓導 |
| 二月七日   | 尋常五學年讀方科批評授業              | 本田訓導 |
| 全 十九日  | 尋常一學年算術科批評授業              | 津村訓導 |
| 十二月二日  | 尋常五學年理科批評授業               | 本田訓導 |
| 全 六日   | 尋常四學年算術科批評授業              | 田川訓導 |
| 全 十一日  | 尋常三學年修身科批評授業              | 正村訓導 |
| 全 十九日  | 尋常二學年讀方科批評授業              | 津村訓導 |
| 一月二十九日 | 尋常五學年理科書に就き研究報告           | 鈴木校長 |
| 二月 五日  | 圖書科教授法に就き研究報告             | 津村訓導 |
| 全 十五日  | 最近教育界の二大思潮に就き研究報告         | 本田訓導 |
| 全 二十二日 | モンテッソーリの教育と其應用に就き研究報告田川訓導 | 田川訓導 |
| 三月 四日  | 學校休養要義に就き研究報告             | 正村訓導 |
| 全 六日   | 人格的教育思潮に就き研究報告            | 井上訓導 |

(ト) 寄附  
 本年天津尋常高等小學校へ寄附せられたる品目及人名を擧ぐれば左の如し  
 一、ミ、ツク刺製 一個 宮城軍醫

( 53 )

(チ) 生徒眼疾治療及身体検査  
 天津小學校生徒の眼疾治療は毎週三回づつ同校治療室に於て行ひ來りしも更に治療上便宜を爲め本年十一月より其立醫院に於て治療を施すこととせり而して本年末に於ける眼疾患者中トホロム十名、濾泡性結膜炎三名、紅彩炎一名、角膜炎三名其他眼臉縁炎等にして之を昨年末トホロム患者數に比すれば二十名の減少を見るに至れり又四月四日生徒一同に對し種痘を施行し且つ身体検査は例年の通り春秋二季に執行せり

(リ) 卒業生及生徒數  
 本年三月二十六日天津小學校第十二回卒業及修業證書授與式を行ひ高等科卒業生十一名尋常科卒業生二十六名にして修業生は高等科十四名、尋常科百六十七名なり而して本年中に於ける入退學生徒數は入學生九十二名、退學生六十五名十二月末現在生徒數は二百四十六名にして之を昨年末に比すれば二十五名の増加なり  
 又本年中に於ける生徒出席歩合は百人に對する九十三人二分八厘一毫にして昨年の出席歩合九十五人九分六厘七毫に比して二人六分八厘六毫の減少なり此れ主に感冒、麻疹等に罹り欠席者多數ありしに因る  
 左に十二月末現在生徒數及學年別を掲げ參考に資す

|     |         |      |     |        |      |     |      |      |
|-----|---------|------|-----|--------|------|-----|------|------|
| 一學年 | 男 一九    | 女 二六 | 二學年 | 男 一九   | 女 二六 | 三學年 | 男 二八 | 女 二二 |
| 尋常科 | (二百十七名) |      | 高等科 | (二十九名) |      |     |      |      |

本年中天津小學校職員中異動なし現在員左の如し

|       |       |
|-------|-------|
| 訓導兼校長 | 鈴木傳一  |
| 訓導    | 井上米二  |
| 全     | 田川寅之助 |
| 全     | 正村幸吉  |
| 全     | 本田豊記  |
| 全     | 津村ヤス  |
| 全     | 松村ヤス  |

(イ) 評議員の増加  
 本年二月二十一日圖書館規則改正の結果評議員三名を五名に増員し左の諸氏に屬託せり

( 55 )

(ロ) 購入及寄附書籍  
 本年中購入せる書籍數は日本經濟叢書外七十二冊雜誌太陽外六百零六冊及豫約註文中のもの人生の行路外五十四冊なり又寄附せられたる書籍は濟南外四百十冊、同雜誌通商公報外百二十八冊なり

| 月次 | 館内  |     | 館外  |    |
|----|-----|-----|-----|----|
|    | 四年  | 五年  | 四年  | 五年 |
| 一月 | 二〇七 | 六一  | 一四六 | 三八 |
| 二月 | 二五四 | 一〇七 | 一四七 | 四七 |
| 三月 | 二一五 | 六七  | 一四八 | 四七 |
| 四月 | 二〇四 | 八一  | 一四九 | 五一 |
| 五月 | 一五七 | 八八  | 一四九 | 三八 |
| 六月 | 一三四 | 八二  | 一四九 | 三一 |
| 計  | 一八六 | 一〇六 | 一四九 | 二一 |

第四、土木部

| 月次 | 館内  |     | 館外  |    |
|----|-----|-----|-----|----|
|    | 四年  | 五年  | 四年  | 五年 |
| 一月 | 一三五 | 一〇二 | 三三  | 三六 |
| 二月 | 一八三 | 一五七 | 四三  | 四〇 |
| 三月 | 一四二 | 一〇〇 | 四〇  | 三二 |
| 四月 | 一四一 | 八六  | 四九  | 四三 |
| 五月 | 一〇六 | 五九  | 四九  | 五八 |
| 六月 | 六八  | 六八  | 四六  | 二七 |
| 計  | 一八六 | 一〇六 | 一四九 | 二一 |

(一) 土地及家屋調査の完成  
 昨年四月より赤山技師監督の下に着手中の租界内土地調査は本年二月下旬全部終了し又家屋台帳調製の爲め永戸新五に租界内家屋調査方を屬託し本年一月十二日より着手し三月十五日全部完成せり

(二) 新道築造工事  
 昨春開通せる旭街より山口街に至る新道(橋立街)延長八百尺幅三十尺の築造工事は公入札の結果銀壹千貳百九拾五弗にて支那人張愛棠に落札せるを以て同人に請負方を命じ本年三月二十八日より工事に着手し四月下旬竣成せり

( 54 )

尺幅三十尺高二尺五寸の埋立を爲すこととし右埋立費銀百二十六弗にて支那人何慶成に請負方を命じ本年一月二十七日より着手し三月下旬終了せり

(六) 下水溝延長と修繕  
 福島街發電所前角より南側舊地鐵工廠前に至る下水延長(八百二十五尺)工事は公入札の結果銀壹千五百十弗にて村津市之助に落札せるを以て全人に請負方を命じ本年六月六日より工事に着手し全三十日竣工し全街芙蓉街通り角より發電所前角に至る長二百二十一尺の下水延長工事を銀三百零四弗八十四仙にて支那人春德厚に命じ五月一日より工事に着手し全二十五日竣工せり又旭街北部の雨水溢れを防ぐの目的を以て橋立街(旭街より山口街白河迄)片側に木樋長九百三十尺の仮排水溝を新設することとし右費用銀九百七十五弗にて宮島興作に請負はしめ六月六日より工事に着手し七月二十七日竣成せり尚宮島街、松島街、秋山街等の雨水排水工事を銀壹百拾弗にて村津市之助に請負はしめ六月二十九日より工事に着手し全三十日竣成し其他租界内各街下水溝修繕は豫算の範圍内に於て例年の通り雨季前後に修繕を爲したり

(七) 撤水區域の擴張  
 租界内花園街以西道路延長と新道路開通の爲め撤水區域擴張の必要を認め從來撤水馬車六台なりしを更に壹台増加し撤水請負額も二百三十弗なりしを二百六十八弗に増額し本年六月一日より各街擴張區域内に撤水せしめたり

(三) 秋山街下水溝擴張費の負担  
 秋山街佛租界側下水溝(榮街より芙蓉街間)は佛租界より多量の雨水流れ入り溢れの虞あるを以て佛工部局に交渉の上左記條件の許に該下水溝を擴張することに決し且つ工事も同工部局に於て行ふべく交渉纏り本年五月一日より工事に着手し同十五日終了せるを以て總工費銀貳千弗の四分の一額銀五百弗を本民間より支出せり

一、秋山街現在の下水溝擴張は佛租界局が其工事に要する費用の四分の二を負担すること

二、該下水溝は同じ割合を以て保持すること

但し前述の擴張工部局及保持は佛租界局に於て行ひ佛租界局は豫め日本租界局の負担となるべき費用の大体額を通知すること

(四) 水道共用採用メートル變更  
 從來使用の水道共用採用メートルは屢々破損を生じ計量上不便尠からざるを以て地下メートルに變更することとし右工事費一ヶ所銀百六十四元にて天津濟安自來水公司に請負方を命じ本年五月一日より工事に着手し同三十一日竣成せるを以て翌六月一日より該地下メートルに依り給水を開始せり

(五) 道路埋立工事  
 租界内福島街通り外務省地界側に家屋新築せられ交通上不便なるを以て道路長百四十四

木、草花及芝生等を植付けたるに園内更に風致を添ゆるに至れり

本年は公會堂前庭に新に植付けたる樹木の外園内各所に例年の通り各種樹木を補植し且つ從來栽培せざる新草花を植付けたり

第五、衛生部

(一) 傳染病患者  
 本年中に於ける傳染病患者は總數五十五名(内本邦人四十三名支那人十二名)にして民國創立以來の大流行を來せり之れを昨年の患者數に比すれば四十名の多きに達せり左に之れを略説すれば二月二十九日開始に天然痘患者(本邦人)一名發生せしを始めて三月には猩紅熱患者八名(内本邦人四名、支那人四名)腸室扶斯患者一名(本邦人)四月中に猩紅熱患者三名(内本邦人二名、支那人一名)天然痘患者一名(本邦人)五月中に猩紅熱患者一名(本邦人)天然痘患者三名(内本邦人二名、支那人一名)六月中に猩紅熱患者八名(内本邦人五名、支那人三名)天然痘患者五名(内本邦人三名、支那人二名)七月中に猩紅熱患者一名(支那人)天然痘患者一名、八月中に腸室扶斯患者六名(本邦人)赤痢患者二名(本邦人)九月中に猩紅熱患者一名(支那人)腸室扶斯患者三名、十月中に腸室扶斯患者一名(本邦人)赤痢患者一名(本邦人)十一月中に腸室扶斯患者二名(本邦人)バラチフス患者一名(本邦人)十二月中に猩紅熱患者一名(本邦人)を出したり今年年中

(八) 道路の補修  
 本年中に於ける租界内各街道路の補修工事は例年の通り三月二十五日より開始し十二月十六日終了せり尚本年は雨水排水工事に要せし費用尠なからざりし爲め豫定の大修繕を行ふ能はざりしを以て補修工事は各街共二回乃至三回修繕を行ひたり

(九) 街樹の補植  
 本年四月九日より同十五日迄の間各街に補植せし樹木數は二百四十九本にして内旭街百二十九本、壽街十一本、榮街三十本、花園街三十二本、秋山街二十九本、松島街五本宮島街九本、福島街四本なり

(一〇) 大和公園  
 入園者制限  
 近年大和公園に多數の支那人入込み取締上非常に困難なるを以て相當制限を爲すの必要を認め支那人官憲其他知名の者には租界局より一定の入園券を交付し一般入園の支那人に對しては毎日午後六時を限り入園を許可せざる事とし公園地下條件に基き本年七月四日總領事の許可を得翌五日より實施したるに取締上頗る好結果を得たり尚園内取締として夏季中臨時日本人一名を雇入れ取締を爲し居たるも本年よりは二名の支那人を園丁として雇入れ取締を爲さしめ居れり

公會堂前庭の築造  
 公會堂前庭は豫算の都合上築造を見合せ居たるも本年四月より愈築造に着手し各種樹



( 61 )

に於ける患者の轉歸を掲ぐれば左表の如し  
大正五年傳染病患者轉歸表

| 病名    | 患者數 | 治愈 | 死亡 |
|-------|-----|----|----|
| 猩紅熱   | 二三  | 一八 | 五  |
| 腸室扶斯  | 一三  | 一二 | 一  |
| 天然痘   | 一一  | 六  | 五  |
| 赤痢    | 六   | 六  |    |
| バラチブス | 二   | 二  |    |
| 計     | 五五  | 四四 | 一一 |

(二) 傳染病室の開設  
去る大正三年二月以來閉鎖中なりし傳染病室は前項の如く多數の猩紅熱患者發生せる爲め本年三月三日初發以來三度開設するに至り而して該傳染病室に收容せる患者は何れも本邦人にして一名死亡せる外他は經過良好にして悉く全治退院し尙十二月一日收容せる患者は經過良好なるも本年未迄には退院の運びに至らざり左に本年中傳染病室に收容せる猩紅熱患者の收容期間並に轉歸を掲げ參考に資す

| 入院月日 | 入院期間  | 男女別 | 年齢 | 轉歸 |
|------|-------|-----|----|----|
| 三月四日 | 二十八日間 | 男   | 七歳 | 治愈 |
|      |       | 女   |    |    |

前項記載の如く本年は各種傳染病患者續發し尙流行の兆ありしを以て豫防上左記心得書を租界内各戸(日支人)に配付し衛生上注意を促したり

傳染病豫防の心得

一、目下天津には猩紅熱、天然痘、肺炎、百日咳等の傳染病流行しつつあり就中猩紅熱は其流行頗る猛烈にして之れが爲め一家族悉く感染し枕を並へて斃れたる悲惨の實例尙からず實に恐るべき流行の状態にあり

| 全     | 全     | 全 | 全    | 全   | 全     | 全     | 全 | 全    | 全   | 全     |       |   |      |     |
|-------|-------|---|------|-----|-------|-------|---|------|-----|-------|-------|---|------|-----|
| 十八日   | 二十四日間 | 男 | 四歳   | 治愈  | 十八日   | 二十四日間 | 女 | 六歳   | 治愈  | 十八日   | 二十四日間 | 男 | 九歳   | 死亡  |
| 二十九日  | 三十三日間 | 男 | 九歳   | 死亡  | 二十九日  | 三十三日間 | 女 | 六歳   | 治愈  | 二十九日  | 三十三日間 | 男 | 六歳   | 治愈  |
| 四月五日  | 五十四日間 | 男 | 九歳   | 治愈  | 四月五日  | 五十四日間 | 女 | 六歳   | 治愈  | 四月五日  | 五十四日間 | 男 | 九歳   | 治愈  |
| 六月九日  | 三十五日間 | 女 | 六歳   | 治愈  | 六月九日  | 三十五日間 | 男 | 六歳   | 治愈  | 六月九日  | 三十五日間 | 女 | 六歳   | 治愈  |
| 六月十二日 | 三十二日間 | 男 | 六歳   | 治愈  | 六月十二日 | 三十二日間 | 女 | 六歳   | 治愈  | 六月十二日 | 三十二日間 | 男 | 六歳   | 治愈  |
| 六月十四日 | 三十四日間 | 男 | 二十九歳 | 治愈  | 六月十四日 | 三十四日間 | 女 | 四歳   | 治愈  | 六月十四日 | 三十四日間 | 男 | 二十九歳 | 治愈  |
| 六月十三日 | 四十四日間 | 男 | 四歳   | 治愈  | 六月十三日 | 四十四日間 | 女 | 六歳   | 治愈  | 六月十三日 | 四十四日間 | 男 | 四歳   | 治愈  |
| 七月十七日 | 三十一日間 | 男 | 十五歳  | 治愈  | 七月十七日 | 三十一日間 | 女 | 六歳   | 治愈  | 七月十七日 | 三十一日間 | 男 | 十五歳  | 治愈  |
| 七月十七日 | 三十一日間 | 女 | 二十三歳 | 治療中 | 七月十七日 | 三十一日間 | 男 | 二十三歳 | 治療中 | 七月十七日 | 三十一日間 | 女 | 二十三歳 | 治療中 |

( 63 )

一、猩紅熱と云ふ病氣は初め咽喉が赤く腫れ痛みを起し熱高く上りて全身倦怠を覺ゆ次第に咽が腫れ狭まりて咳頻りに出づ次で顔面、頸部、胸の部分に紅き細かさ發疹を見る此の發疹は病の質に依りて身体の一部に止まるあり全身に發するあり(又病中少し此の發疹を見ざるものあり)病の終りには熱降り咽頭の腫れを薄らきて皮膚は追々と片々に落屑す

二、猩紅熱は一種の微菌にて起る病なるか其の病者の呼吸に接しても皮膚に觸れても感染し大小便、唾等よりも傳染するものにして最も恐るべき空氣傳染なりと思はるゝ病故に他の傳染病を防ぐよりは頗る困難なり子供は最も罹り易く、大人にても感冒の氣味ある時、咽喉に病ある時は他の健康の人よりは傳染し易きことを忘るべからず

三、猩紅熱の傳染を防ぐには此の病者に接近せざることは勿論、其家に往來すべからず、咽喉赤く腫れ熱出づる時、感冒の氣味にて咳嗽のある時杯は即刻醫師の診察を受くべし治療の時運るれば其身も生命を失ふべく家族も全滅の不幸を蒙ることあるべし

四、家に猩紅熱又は少しにても之に疑はしき病者あれば醫師の診察を受くと共に醫師の注意を待つまでもなく病者は他の場所、隔離して全家の消毒、家人健康診察等を其節に願ひ出づる程の注意なからざるべからず、かくまて注意周到なれば如何に猛烈なる傳染病も恐るゝことなく各自の職に安んじ得べし之

れ管に猩紅熱のみにはあらざるなり  
又左に既往五ヶ年間に於ける傳染病患者一覽表を掲げて參考に資す  
自大正元年  
至大正五年五ヶ年間に於ける傳染病患者一覽表

| 病名    | 四十五年 | 大正二年 | 大正三年 | 大正四年 | 大正五年 |
|-------|------|------|------|------|------|
| 天然痘   | 四    | 〇    | 七    | 二    | 二    |
| 實扶的里亞 | 四    | 二    | 二    | 二    | 二    |
| 腸室扶斯  | 六    | 二    | 二    | 二    | 二    |
| バラチブス | 四    | 二    | 二    | 二    | 二    |
| 虎列刺   | 四    | 二    | 二    | 二    | 二    |
| 猩紅熱   | 一    | 二    | 二    | 二    | 二    |
| 疑似猩紅熱 | 一    | 二    | 二    | 二    | 二    |
| 赤痢    | 二    | 一    | 二    | 二    | 二    |
| 疫癘    | 一    | 一    | 二    | 二    | 二    |
| 發疹室扶斯 | 一    | 一    | 二    | 二    | 二    |
| 計     | 一八   | 四    | 二〇   | 二七   | 三一   |

( 64 )

去る大正三年二月以來閉鎖中なりし傳染病室は前項の如く多數の猩紅熱患者發生せる爲め本年三月三日初發以來三度開設するに至り而して該傳染病室に收容せる患者は何れも本邦人にして一名死亡せる外他は經過良好にして悉く全治退院し尙十二月一日收容せる患者は經過良好なるも本年未迄には退院の運びに至らざり左に本年中傳染病室に收容せる猩紅熱患者の收容期間並に轉歸を掲げ參考に資す

| 入院月日 | 入院期間  | 男女別 | 年齢 | 轉歸 |
|------|-------|-----|----|----|
| 三月四日 | 二十八日間 | 男   | 七歳 | 治愈 |
|      |       | 女   |    |    |

前項記載の如く本年は各種傳染病患者續發し尙流行の兆ありしを以て豫防上左記心得書を租界内各戸(日支人)に配付し衛生上注意を促したり

傳染病豫防の心得

一、目下天津には猩紅熱、天然痘、肺炎、百日咳等の傳染病流行しつつあり就中猩紅熱は其流行頗る猛烈にして之れが爲め一家族悉く感染し枕を並へて斃れたる悲惨の實例尙からず實に恐るべき流行の状態にあり

| 全     | 全     | 全 | 全    | 全   | 全     | 全     | 全 | 全    | 全   | 全     |       |   |      |     |
|-------|-------|---|------|-----|-------|-------|---|------|-----|-------|-------|---|------|-----|
| 十八日   | 二十四日間 | 男 | 四歳   | 治愈  | 十八日   | 二十四日間 | 女 | 六歳   | 治愈  | 十八日   | 二十四日間 | 男 | 九歳   | 死亡  |
| 二十九日  | 三十三日間 | 男 | 九歳   | 死亡  | 二十九日  | 三十三日間 | 女 | 六歳   | 治愈  | 二十九日  | 三十三日間 | 男 | 六歳   | 治愈  |
| 四月五日  | 五十四日間 | 男 | 九歳   | 治愈  | 四月五日  | 五十四日間 | 女 | 六歳   | 治愈  | 四月五日  | 五十四日間 | 男 | 九歳   | 治愈  |
| 六月九日  | 三十五日間 | 女 | 六歳   | 治愈  | 六月九日  | 三十五日間 | 男 | 六歳   | 治愈  | 六月九日  | 三十五日間 | 女 | 六歳   | 治愈  |
| 六月十二日 | 三十二日間 | 男 | 六歳   | 治愈  | 六月十二日 | 三十二日間 | 女 | 六歳   | 治愈  | 六月十二日 | 三十二日間 | 男 | 六歳   | 治愈  |
| 六月十四日 | 三十四日間 | 男 | 二十九歳 | 治愈  | 六月十四日 | 三十四日間 | 女 | 四歳   | 治愈  | 六月十四日 | 三十四日間 | 男 | 二十九歳 | 治愈  |
| 六月十三日 | 四十四日間 | 男 | 四歳   | 治愈  | 六月十三日 | 四十四日間 | 女 | 六歳   | 治愈  | 六月十三日 | 四十四日間 | 男 | 四歳   | 治愈  |
| 七月十七日 | 三十一日間 | 男 | 十五歳  | 治愈  | 七月十七日 | 三十一日間 | 女 | 六歳   | 治愈  | 七月十七日 | 三十一日間 | 男 | 十五歳  | 治愈  |
| 七月十七日 | 三十一日間 | 女 | 二十三歳 | 治療中 | 七月十七日 | 三十一日間 | 男 | 二十三歳 | 治療中 | 七月十七日 | 三十一日間 | 女 | 二十三歳 | 治療中 |

(三) 清潔法施行

本年中に於ける租界内清潔法は例年の如く春秋二季に施行せり而して春季は五月一日より同日迄十日間秋季は十月二日より十三日迄十二日間前年通り施行區域を二分し其都度告示を以て施行日割を一般居住者に示し且つ施行心得書を各戸に配布し施行したるに頗る好成績を得たり

(四) 種痘の施行

從來種痘は毎年四五月の候に於て施行し來りしが本年は支那街に於て天然痘流行し蔓延の兆ありしを以て豫防上施行期日を繰上げ三月二十二日より同日迄二十五日迄四日間公會堂に於て本邦人の種痘を行ひ又支那人に對しては四月十七日より同日迄五日間天安里德義樓通潔潔同慶茶園共立學校等へ便宜出張施行せり今其種痘人員を掲ぐれば左の如し

日本人 六百七十六人  
支那人 五百二十八人  
計 一千一百九十六人

(五) 野犬捕殺

狂犬病豫防上毎年租界内野犬捕殺を勵行しつゝありしが當租界の支那街に隣接せる爲め年々其數を増し撲滅不能なる状態にして殊に本年は一層其數を増したる模様なるを以て特に之れを捕殺に努めたる結果本年一月より十二月迄一ヶ年間に於て壹千零

十九頭を捕殺し之れを昨年比すれば三百五十七頭の多きを示せり

(六) 傳染病室の改修

本年傳染病流行の兆ありしを以て現在の傳染病室内部の構造に多少改修を加へ萬一に備ふるの必要を認め本年五月中旬銀參百五拾弗を投じ病室間仕切其他隔離室事務室の變更及ペンキ塗替等夫々改修を加へたり

(七) 水道水の検査

昨年天津濟安自水公司と本民團との間に締結せる水道給水契約に據り本年十月五日全公司より共立醫院に依頼し検査を爲したる水道水細菌検査の成績を掲ぐれば左の如し 大正五年十月三日検査

左の四ヶ所の水中細菌数を試す

|      |                  |
|------|------------------|
| 一、河水 | (水道水門の入口前の河水即源水) |
| 二、池水 | (自淨池の最終部に於ける水)   |
| 三、淨水 | (濾過直後貯水池に於ける井水)  |
| 四、日水 | (日本租界軍病院水道栓水)    |
| 採水時間 | 午前九時三十分          |
| 河水   | 全 九時四十五分         |
| 池水   | 全 九時四十五分         |
| 淨水   | 全 九時五十六分         |

日水 同 十一時十分

培養時間 四種同時に十一時三十分培養す

ヘッセ氏培養基を用ひ總て無菌的操作を行ひ室温に四十八時間培養し發育せる細菌集落數を計算し水中の細菌數となす

河水は細菌數總多なるを慮り豫め滅菌蒸餾水を以て百倍に稀釋し他の水は其儘各々一〇cc、五cc、一ccを培養し發育せるコロニー數を平均し以て可檢水一〇cc中の細菌數となせり

|       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 第一列   | 第二列   | 第三列   | 第四列   | 第五列   | 第六列   | 第七列   | 第八列   | 第九列   | 第十列   | 第十一列  | 第十二列  |
| 河水    | 河水    | 河水    | 河水    | 河水    | 河水    | 河水    | 河水    | 河水    | 河水    | 河水    | 河水    |
| 淨水    | 淨水    | 淨水    | 淨水    | 淨水    | 淨水    | 淨水    | 淨水    | 淨水    | 淨水    | 淨水    | 淨水    |
| 池水    | 池水    | 池水    | 池水    | 池水    | 池水    | 池水    | 池水    | 池水    | 池水    | 池水    | 池水    |
| 日水    | 日水    | 日水    | 日水    | 日水    | 日水    | 日水    | 日水    | 日水    | 日水    | 日水    | 日水    |
| 水量    | 水量    | 水量    | 水量    | 水量    | 水量    | 水量    | 水量    | 水量    | 水量    | 水量    | 水量    |
| 〇.二cc | 〇.二cc | 〇.二cc | 〇.二cc | 〇.二cc | 〇.二cc | 〇.二cc | 〇.二cc | 〇.二cc | 〇.二cc | 〇.二cc | 〇.二cc |
| 中     | 中     | 中     | 中     | 中     | 中     | 中     | 中     | 中     | 中     | 中     | 中     |
| 〇.五cc | 〇.五cc | 〇.五cc | 〇.五cc | 〇.五cc | 〇.五cc | 〇.五cc | 〇.五cc | 〇.五cc | 〇.五cc | 〇.五cc | 〇.五cc |
| 同     | 同     | 同     | 同     | 同     | 同     | 同     | 同     | 同     | 同     | 同     | 同     |
| 一、〇cc | 一、〇cc | 一、〇cc | 一、〇cc | 一、〇cc | 一、〇cc | 一、〇cc | 一、〇cc | 一、〇cc | 一、〇cc | 一、〇cc | 一、〇cc |
| 平均數   | 平均數   | 平均數   | 平均數   | 平均數   | 平均數   | 平均數   | 平均數   | 平均數   | 平均數   | 平均數   | 平均數   |
| 一、〇cc | 一、〇cc | 一、〇cc | 一、〇cc | 一、〇cc | 一、〇cc | 一、〇cc | 一、〇cc | 一、〇cc | 一、〇cc | 一、〇cc | 一、〇cc |
| 三〇八   | 三〇八   | 三〇八   | 三〇八   | 三〇八   | 三〇八   | 三〇八   | 三〇八   | 三〇八   | 三〇八   | 三〇八   | 三〇八   |
| 一七四   | 一七四   | 一七四   | 一七四   | 一七四   | 一七四   | 一七四   | 一七四   | 一七四   | 一七四   | 一七四   | 一七四   |
| 四六八   | 四六八   | 四六八   | 四六八   | 四六八   | 四六八   | 四六八   | 四六八   | 四六八   | 四六八   | 四六八   | 四六八   |
| 八六八   | 八六八   | 八六八   | 八六八   | 八六八   | 八六八   | 八六八   | 八六八   | 八六八   | 八六八   | 八六八   | 八六八   |
| 六九    | 六九    | 六九    | 六九    | 六九    | 六九    | 六九    | 六九    | 六九    | 六九    | 六九    | 六九    |
| 九九    | 九九    | 九九    | 九九    | 九九    | 九九    | 九九    | 九九    | 九九    | 九九    | 九九    | 九九    |
| 四〇八   | 四〇八   | 四〇八   | 四〇八   | 四〇八   | 四〇八   | 四〇八   | 四〇八   | 四〇八   | 四〇八   | 四〇八   | 四〇八   |
| 八三〇   | 八三〇   | 八三〇   | 八三〇   | 八三〇   | 八三〇   | 八三〇   | 八三〇   | 八三〇   | 八三〇   | 八三〇   | 八三〇   |
| 一七三   | 一七三   | 一七三   | 一七三   | 一七三   | 一七三   | 一七三   | 一七三   | 一七三   | 一七三   | 一七三   | 一七三   |
| 七六    | 七六    | 七六    | 七六    | 七六    | 七六    | 七六    | 七六    | 七六    | 七六    | 七六    | 七六    |
| 一八    | 一八    | 一八    | 一八    | 一八    | 一八    | 一八    | 一八    | 一八    | 一八    | 一八    | 一八    |
| 一八九   | 一八九   | 一八九   | 一八九   | 一八九   | 一八九   | 一八九   | 一八九   | 一八九   | 一八九   | 一八九   | 一八九   |
| 一七九   | 一七九   | 一七九   | 一七九   | 一七九   | 一七九   | 一七九   | 一七九   | 一七九   | 一七九   | 一七九   | 一七九   |

十九頭を捕殺し之れを昨年比すれば三百五十七頭の多きを示せり

(六) 傳染病室の改修

本年傳染病流行の兆ありしを以て現在の傳染病室内部の構造に多少改修を加へ萬一に備ふるの必要を認め本年五月中旬銀參百五拾弗を投じ病室間仕切其他隔離室事務室の變更及ペンキ塗替等夫々改修を加へたり

(七) 水道水の検査

昨年天津濟安自水公司と本民團との間に締結せる水道給水契約に據り本年十月五日全公司より共立醫院に依頼し検査を爲したる水道水細菌検査の成績を掲ぐれば左の如し 大正五年十月三日検査

左の四ヶ所の水中細菌数を試す

|      |                  |
|------|------------------|
| 一、河水 | (水道水門の入口前の河水即源水) |
| 二、池水 | (自淨池の最終部に於ける水)   |
| 三、淨水 | (濾過直後貯水池に於ける井水)  |
| 四、日水 | (日本租界軍病院水道栓水)    |
| 採水時間 | 午前九時三十分          |
| 河水   | 全 九時四十五分         |
| 池水   | 全 九時四十五分         |
| 淨水   | 全 九時五十六分         |

( 70 )

( 69 )

|  |  |
|--|--|
| <p>附 錄</p> <p>天津居留民團財產明細書(大正五年十二月末日現在)</p> <p>資產の部 (借方)</p> <p>一 銀六千零參拾六弗貳拾貳仙也 土 地</p> <p>內 譯</p> <p>銀貳千八百六拾參弗六拾仙五厘 共同墓地 (五、七三九、三二一)<br/>     銀壹千參百七拾貳弗六拾壹仙五厘 小學校敷地 (一、六七四、三三二)<br/>     銀壹千八百弗 舊本願寺布教所敷地 (五九八、四〇〇)</p> <p>一 銀拾四萬參千貳百六十四弗零四仙也 建 物</p> <p>內 譯</p> <p>銀壹萬七千五百七拾七弗八拾壹仙 天津小學校々舎及宿舍(二五七、二八一)<br/>     銀參千壹百九拾八弗六拾八仙 同校門及堀其他附屬建物<br/>     銀貳千壹百五拾五弗 同上屋內体操場 (四五、〇〇〇)</p> | <p>明治四十五年</p> <p>大正元年</p> <p>大正二年</p> <p>大正三年</p> <p>大正四年</p> <p>大正五年</p> <p>以 上</p> <p>大正六年二月</p> <p>天津居留民團</p> <p>行政委員會議長 鈴木敬親</p> <p>二二、九二三、六一〇瓦魯</p> <p>三一、〇〇三、九二〇瓦魯</p> <p>三八、一九五、九四〇瓦魯</p> <p>三三、六二四、七八六瓦魯</p> <p>三七、七五九、四六〇瓦魯</p> |
|--|--|

( 72 )

( 71 )

|   |  |
|---|--|
| <p>內 譯</p> <p>銀七千四百四拾八弗四拾壹仙 口徑六吋鐵管 (四、三〇〇、〇〇〇)<br/>     銀壹萬四千六百九拾七弗八拾貳仙 口徑四吋鐵管 (一四、二九九、〇〇〇)<br/>     銀壹千六百九拾九弗九拾壹仙 口徑二吋鐵管 (三、六一六、〇〇〇)<br/>     銀七拾四弗參拾貳仙 口徑一吋半鐵管 (一、五四〇、〇〇〇)<br/>     銀貳百八拾七弗七拾貳仙 口徑四分ノ三吋鐵管 (二、八七七、二二二)</p> <p>附屬品</p> <p>一 銀五萬六千四百四拾六弗六拾貳仙也 物 品</p> <p>內 譯</p> <p>銀壹萬壹千貳百四拾四弗七拾八仙 事務所備品 (七七六、六六六)<br/>     銀參百九拾參弗六拾七仙 會議室備品 (七三三、三三三)<br/>     銀壹萬四千六百九拾七弗四拾仙 土木器具 (二、三〇〇、〇〇〇)<br/>     銀貳千零五弗六拾六仙 水道器具 (三、一〇〇、〇〇〇)<br/>     銀六千壹百零貳弗四拾五仙 小學校備品 (三、六〇九、九九九)<br/>     銀六百貳拾七弗 衛生器具 (五八八、八八八)<br/>     銀參千八百拾貳弗九拾四仙 巡捕貨與品 (五七〇、〇〇〇)</p> | <p>銀七百九拾壹弗六拾仙 傳染病室附屬舎及病理研究所 (二〇、二八〇、〇〇〇)<br/>     銀七百貳拾貳弗九仙 消防器具置場 (一七、〇六〇、〇〇〇)<br/>     銀參百貳拾弗 スチムローラー置場 (一五、〇〇〇、〇〇〇)<br/>     銀八千九百五拾弗 橋 大和公園門扉及附屬建物<br/>     銀四千壹百四拾八弗 菜市場<br/>     銀五千七百參拾五弗 伊集院紀念音樂堂<br/>     銀參千壹百貳拾八弗八拾六仙 汚水棄却場 二ヶ所<br/>     銀壹千弗 墓地門扉及周圍煉瓦塀<br/>     銀九百五拾九弗 民團事務所公會堂圖 (四八五、三三〇、〇〇〇)<br/>     銀七萬零壹百貳拾四弗八拾四仙 書館俱樂部附屬家屋<br/>     銀壹萬四千四百弗 民團吏員教員宿舍及附屬家屋 (二、三九、二三八、〇〇〇)<br/>     銀五千貳百六拾參弗六拾六仙 媛房<br/>     銀九百八拾弗 民團事務所附屬倉庫 (二、四〇〇、〇〇〇)<br/>     銀壹千五百弗 全上正門<br/>     銀貳千參百貳拾弗 公園係員其他宿舍 (二、九、二四九、〇〇〇)</p> <p>一 銀貳萬七千六百零七弗六拾八仙也 水 道</p> |
|---|--|



|   |  |
|---|--|
| <p>銀四百五拾貳弗<br/>銀七千零六弗參拾壹仙<br/>銀四千零九拾弗八拾五仙<br/>銀壹千六百貳拾參弗五拾仙<br/>銀二千零八拾參弗四拾八仙<br/>銀壹百七拾壹弗<br/>銀壹千八百貳拾九弗五拾八仙</p> <p>巡捕備品 (三八六點)<br/>消防器具 (二四一點)<br/>圖書館圖書 (四、三八三點)<br/>全備品 (一九〇點)<br/>傳染病室備品 (六五七點)<br/>碼頭器具 (九點)<br/>公園器具 (一八九點)</p> <p>當座預金</p> <p>一銀九千九百貳拾四弗九拾壹仙也<br/>一銀八千零九拾參弗四拾八仙也<br/>一金六百拾參圓貳拾錢也</p> <p>特別當座預金</p> <p>一銀貳百參拾四弗五拾七仙也<br/>計 銀貳拾五萬壹千六百零壹弗五拾貳仙也<br/>金六百拾參圓貳拾錢也</p> <p>負債の部<br/>(貸方)<br/>正金銀行より借入金</p> <p>一銀七萬八千弗也</p> | <p>一銀七千五百七拾九弗參拾仙也<br/>一金六百拾參圓貳拾錢也</p> <p>民團特別基金</p> <p>內 譯</p> <p>銀五百貳拾九弗四拾五仙 準備基金<br/>銀參千九百參拾八弗貳拾貳仙 慈善基金<br/>銀壹千五百八拾六弗九拾四仙 教育寄附基金<br/>銀參百零貳弗四拾五仙 仙波將軍紀念教育基金<br/>銀壹千貳百貳拾貳弗貳拾四仙 天津小學校建築基金<br/>金六百拾參圓貳拾錢 小幡紀念文庫基金</p> <p>一銀五百拾四弗拾八仙也 天津神社建築基金<br/>一銀拾六萬五千五百零八弗零四仙也 民團財產<br/>計 銀貳拾五萬壹千六百零壹弗五拾貳仙也<br/>金六百拾參圓貳拾錢也</p> <p>以上</p> |
|---|--|

